目次

基本的なファイルオプションの使用 1

基本的なファイルオプションの使用: イントロダクション 1

新しい測定ルーチンの作成 2

既存の測定ルーチン 3

測定ルーチンの保存 6

改名保存 7

スキーマ番号と古いバージョンへの保存について 10

測定ルーチンのアーカイブを使用した操作 11

ファイル操作の実行 12

ﾐﾗｰ変換 13

ｺﾋﾟｰ 18

削除する 19

改名 19

査証 20

言語の変更 34

Teamcenter への接続 35

プリンタ オプションの設定 36

グラフィックの表示ウィンドウの印刷 36

グラフィックの表示ウィンドウ用の出力設定とプリンタ オプション設定 37

印刷作業のプレビュー 38

編集ウィンドウの印刷 39

レポートウィンドウの印刷 42

レポートウィンドウの出力およびプリンタオプションの設定 42

測定ルーチンを閉じて終了する 69

ソフトウェアの終了 70

基本的なファイルオプションの使用

基本的なファイルオプションの使用: イントロダクション

PC-DMIS は、測定ルーチンを操作し、お客様の重要なファイルを管理するための数多くのオプションを提供します。ほとんどの Windows ベースのプログラムと同様、Windows 標準ダイアログ ボックスを用いて基本的なファイル管理ができます。これらには、ファイル作成、ファイを開く、コピー、名前の変更、ファイルの削除といった操作が含まれます。これに加え、PC-DMIS を通して、CAD データのインポート及びエクスポート、または完成した測定ルーチンの実行など、さらに高度なオペレーションも行えます。

この章では、特に基本のファイルオプションについて記述しています。より高度なオプションについては、「高度なファイルオプションの使用」の章を参照して下さい。

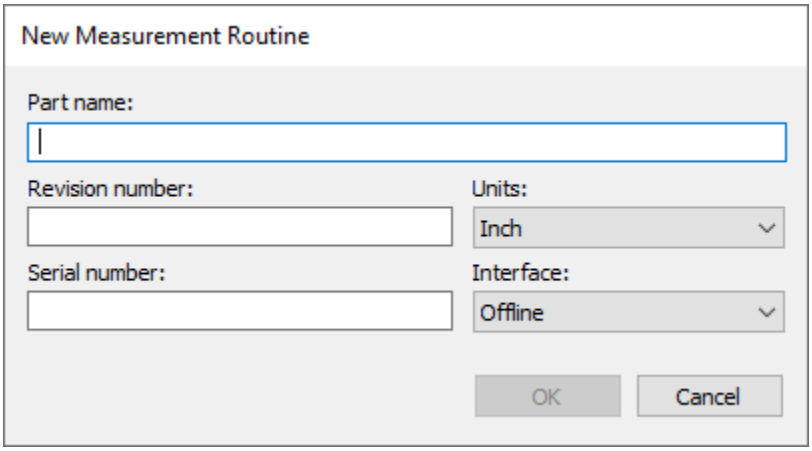
この章に記述されているオプションは以下のとおりです:

- 新しい測定ルーチンの作成
- 既存の測定ルーチンを開く
- 測定ルーチンの保存
- 測定ルーチンのアーカイブを使用した操作
- ファイル操作の実行
- Teamcenter への接続
- 言語変更
- グラフィックの表示ウィンドウの印刷

- レポートウィンドウの印刷
- 測定ルーチンを閉じて終了する
- PC-DMIS を閉じる

新しい測定ルーチンの作成

既存の測定ルーチンがない場合は、**新しい測定ルーチン**ダイアログボックスを使用して新しい測定ルーチンを作成することができます。このダイアログボックスには**ファイル | 新規**メニューオプションによってアクセスできます。



新測定ルーチンダイアログボックス

これで新しい測定ルーチンを作成できます。パート名、シリアル番号、改訂番号、CMM のインターフェイスタイプおよび使用したい測定単位を入力することができます。**OK** をクリックすると、PC-DMIS は測定ルーチンを作成します。

新規測定ルーチンを作成するために PC-DMIS が要求することは、**パート名**ボックスが値を持つことだけです。**改訂番号**および**シリアル番号**ボックスに入力する情報は省略可能です。

ホームページで新しい測定ルーチンを作成することもできます。最も頻繁に使用するコマンドが測定ルーチンに配置されるようにテンプレートから測定ルーチンを作成することもできます。また、テンプレートから作成する測定ルーチンの移動先フォルダーを選択することもできます。詳しくは、「ユーザーインターフェイスの操作」章の「ホームページ」および「測定ルーチンテンプレートの使用」を参照してください。

既存の測定ルーチン

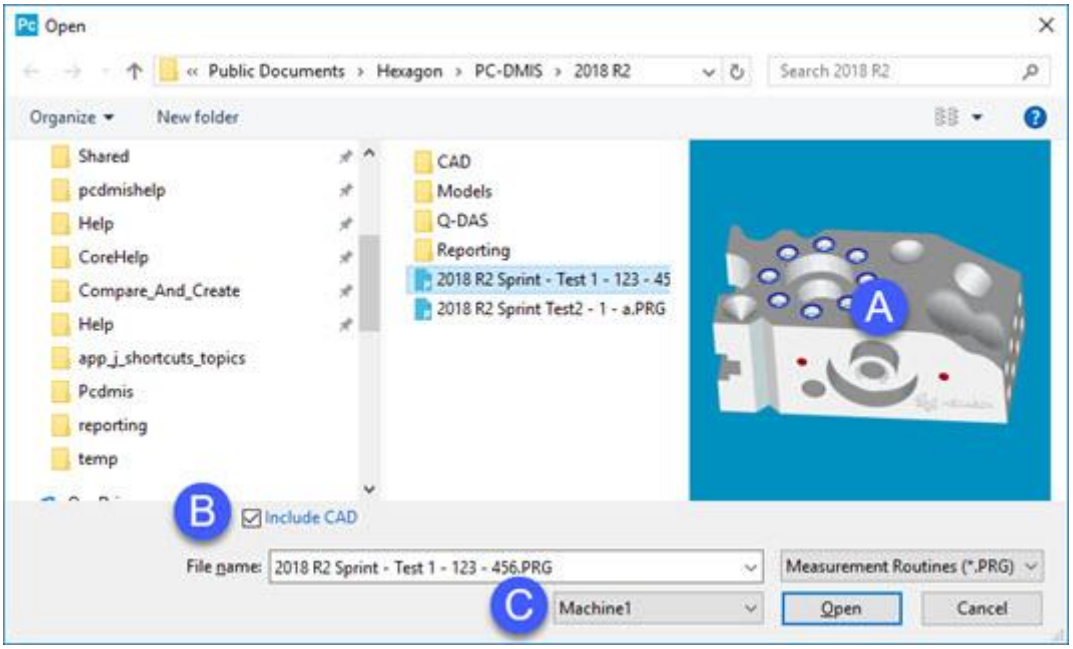
ホームページまたは**開く**ダイアログボックスから測定ルーチンを開くことができます。ホームページについては、「ユーザーインターフェイスの操作」章の「ホームページ」トピックに記載されています。**開く**ダイアログボックスについては、継続して下記をお読みください。

[**開く**]ダイアログボックスを使用して、測定ルーチンを見つけて開くことができます。

[**開く**]ダイアログボックスを開くには、[**ファイル|開く**を選択します。

バージョン 3.2 以前のバージョンで作成されたこのバージョンで測定ルーチンを開いても、古いバージョンでは機能しません。古いバージョンの PC-DMIS で測定プログラムを使用する場合は必ずバックアップを作成してください。

このダイアログボックスは標準的な Windows の**開く**ダイアログボックスであり、次の追加項目があります:



「開く」ダイアログ ボックス

A. **プレビュー** - ダイアログ ボックスのこのエリアには、グラフィック表示ウィンドウ (ラベルなし) におけるパートの最後の表示に対する CAD 画像が表示されます。パートに CAD データがない場合、画像は測定された幾何形状を表示します。ホームページの「右ペイン」からサムネイルを設定すると、PC-DMIS はプレビュー画像としてサムネイルを表示します。

B. **CAD を含む** - このチェックボックスは、測定ルーチンを開くときに CAD モデルをロードするかどうかを決定します。CAD モデルが開いている測定ルーチンの一部である場合は、[**CAD を含む**]チェックボックスをクリックします。このチェックボックスをオフにすると、測定ルーチンを開いたときに PC-DMIS は CAD モデルをロードしません。

C. **インターフェイス** - このリストには、システム内のオンライン測定機及び**オフライン**オプションが表示されます。

- PC-DMIS がオンラインモードで実行されている場合、この測定ルーチンに使用する測定機インタフェースを選択できます (複数の CMM がある場合) 。

- PC-DMIS がオフラインモードで実行されている場合は、**オフライン**測定オプションを選択できます。

PC-DMIS を起動すると**開く**ダイアログボックスが自動的に開き、既存の測定ルーチンを開くことができます。ただし、この機能をオフにする場合は、[**セットアップオプション**]ダイアログボックスの[**全般**]タブで、[**起動ダイアログボックスを表示する**]チェックボックスをオフにします。

オープン時のプローブ変換メッセージ

以前のバージョンから測定ルーチンを開いている場合、測定ルーチンに最終形式に使用された任意のプローブファイルを変更したいのかを尋ねる警告メッセージを受信することがあります。

PC-DMIS の古いバージョンでプローブの使用を計画すると、プローブファイルを更新することができません。しかし、プローブファイルを最後形式に更新する前に、PC-DMIS のバージョンにプローブのいくつの新しい要素が利用できないのを注意してください。

測定ルーチンを開いているとき、このメッセージを受信し続ける場合は、**はい**をクリックした後でも、**ファイル|名前を付けて保存** 操作を実行して、PC-DMIS のバージョンで互換性があるように測定ルーチンを保存する必要があります。詳細については、「名前を付けて保存」トピックを参照してください。

サブルーチン名

以前のバージョンで 180 文字を超える名前を付けられたサブルーチンを含む測定ルーチンを開くと、サブルーチンの名前は自動的に最初の 180 文字に短縮されます。

ホームページで新しい測定ルーチンを開くこともできます。詳しくは、「ユーザーインターフェイスの操作」章の「ホームページを参照してください。

測定ルーチンの保存

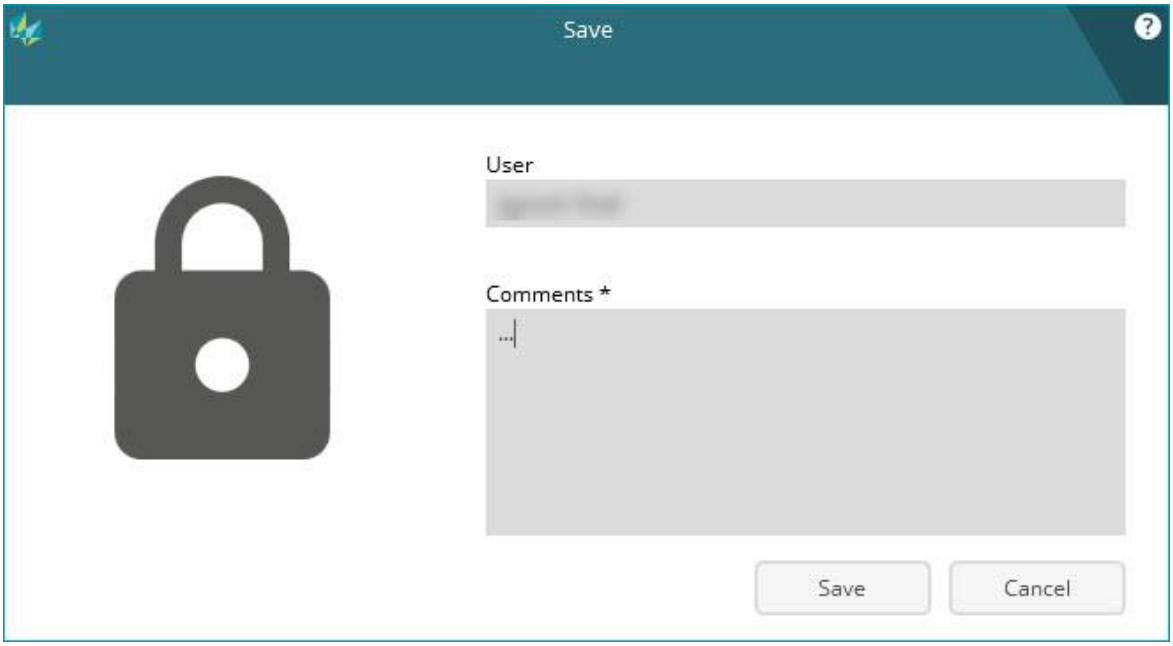
[ファイル | 保存]オプションを選択すると、現在の測定ルーチンで行われた全ての作業が保存されます。ファイルを初めて保存する場合、**[名前を付けて保存]**ダイアログ ボックスが現れます。このダイアログ ボックスにより、お手持ちの測定ルーチンの保存先を選択できます (より詳しい情報については、「名前を付けて保存」トピックを参照して下さい) 。

(**[名前を付けて保存]**ダイアログボックスから) 測定ルーチンを旧バージョンの PC-DMIS として保存した場合、PC-DMIS は以降この測定ルーチンを保存する際にメッセージを表示します。このメッセージは測定ルーチンを前に選択した旧バージョンに保存するかどうかを尋ねます。ユーザーは下記のオプションを選択できます。

- **はい** - PC-DMIS は測定ルーチンを古いバージョンに保存します。
- **いいえ** - PC-DMIS は測定ルーチンを現在のバージョンに保存します。
- **キャンセル** - PC-DMIS は保存せずに保存のプロセスを終了します。

このメッセージの表示を止めたい場合、「優先設定」の章の「警告」を参照してください。

認定済の測定ルーチンを保存すると、PC-DMIS は**保存**ダイアログボックスを表示します。



保存ダイアログ ボックス

[**保存**]ボタンをクリックすると、.protect ファイルにコメントを付けて測定ルーチンに加えたすべての変更が保存されます。

認定済の測定ルーチンについては、「認定」を参照してください。

特定のイベントでは、測定ルーチンは自動的にアーカイブされます。詳細は「測定ルーチンのアーカイブを使用した操作」を参照してください。

改名保存

ファイル| 名前を付けて保存オプションを選択するか、測定ルーチンを初めて保存すると、[**名前を付けて保存**]ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでの**ファイル名**オプションを使用して、現在の測定プログラムを新規ファイル名で保存することができます。また、測定プログラムを旧バージョンの PC-DMIS で保存することもできます。

測定プログラムを保存するには**保存**をクリックします。測定プログラムを保存せずにダイアログボックスを閉じるには、**取り消し**をクリックします。

認証済みの測定ルーチンに[**ファイル|改名保存**]オプションを選択すると、[**改名保存**]ダイアログボックスの前に新しい測定ルーチンで認証を維持するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。ユーザーは下記のオプションを選択できます：

- **はい** - PC-DMIS は測定手順を保存し、新しい測定手順に関する認証を維持します。また、.protect ファイルを生成し、前の.protect ファイルからの変更を追跡し続けます。
- **いいえ** - PC-DMIS は測定手順を保存しますが、新しい測定手順に関する認定を保持しません。
- **キャンセル** - PC-DMIS は保存せずに名前を付けて保存を終了します。

PC-DMIS 2018 R2 以前で検証済みの測定ルーチンを開くと、認証は利用できません。測定ルーチンは通常の測定ルーチンと同様に開きます。

旧バージョンの PC-DMIS に保存する

バージョン番号の一覧から、現在のバージョンと以前のバージョンの PC-DMIS が使用できる形式で測定ルーチンを保存することができます。使用できるバージョンには 3.20x 以降です。

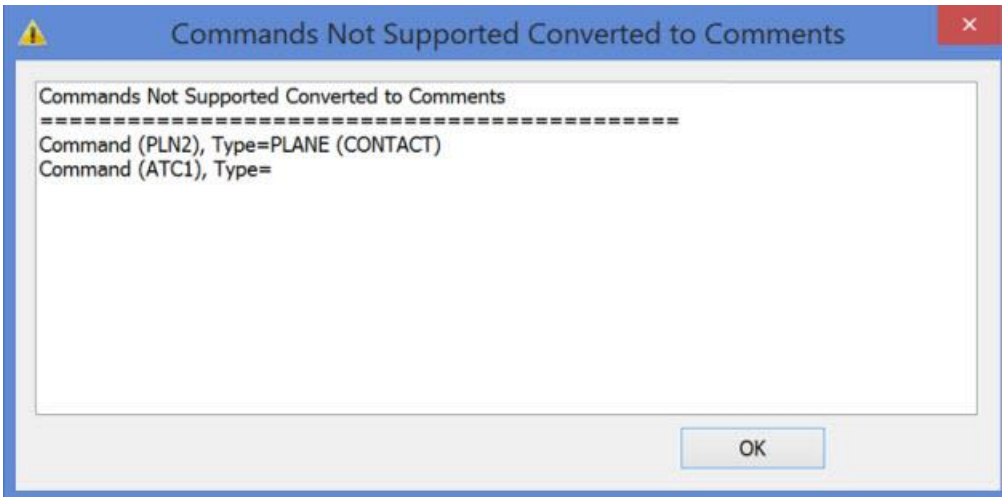
測定ルーチンを古いバージョンの PC-DMIS に保存しようとし、測定ルーチンに古いバージョンがサポートしないコマンドが含まれていると、PC-DMIS はそれらのコマンドをコメントに変換します。

PC-DMIS 2018 R2 以前のバージョンで認定済みの測定ルーチンを保存しようとすると、PC-DMIS は認定を削除します。その古いバージョンで測定ルーチンを開くと、認定は利用できません。

この測定プログラムの保存を取り消すには、**取り消し**をクリックします。

旧バージョンへの測定プログラムの保存を続行するには、**保存**をクリックします。

PC-DMIS は非サポートコマンドをコメントに変換し、**コメントへの変換がサポートされていないコマンド**ダイアログボックスを表示します。このダイアログボックスには PC-DMIS がコメントに変換した非サポートコマンドの一覧が表示されます。例を以下に示します。



コメントへの変換が支援されていないコマンドダイアログ ボックス

このメッセージを認識したことを確認するには、[**OK**]をクリックする必要があります。

`SaveAsWarningLogEnabled` レジストリエントリが有効な場合、PC-DMIS はメッセージの内容を含むログファイルを自動的に作成します。ログファイルの名前は下記です。

<name>_Save_As_Log_<YYYYMMDDHHMMSS>.log

ここで、<name>は測定プログラムの名前です。<YYYYMMDDHHMMSS>は日付と時刻です。

YYYY は年です。

MM は月です。

DD は日です。

HH は時です。

MM は分です。

SS は秒です。

ログファイルは測定ルーチンと同じフォルダにあります。

ログファイルの作成を無効にすることはできません。ヘルプについては、設定エディタドキュメントの「有効化された警告ログとして保存する」トピックを参照してください。

スキーマ番号と古いバージョンへの保存について

PC-DMIS の新バージョンはそれぞれ新機能を備えており、旧バージョンが理解できない新しいコマンドを測定ルーチンに保存します。そのため、各測定ルーチンには PC-DMIS の特定バージョンに関連付けられた内部スキーマ番号が割り当てられています。デフォルトでは、[**ファイル | 保存**]を選択すると測定ルーチンは現在のバージョンのスキーマ番号に割り当てられます。この番号によって、そのバージョン(またはそれ以降のバージョン)のみがその測定ルーチンを開くことができるようになります。

例えば、バージョン 2011 で保存された測定ルーチンがある場合、スキーマ番号は 5008 になります。この測定ルーチンをバージョン 2010 に読み込もうとすると、旧バージョンは PC-DMIS 2011 で行われた変更を処理できないため、互換性を維持できません。もちろん、測定ルーチンをバージョン 2010 フォーマットに戻して保存することを選択することはできます。これにより、測定ルーチンの内部スキーマ番号が 4555 にドロップされ、バージョン 2010 で開くことができます。但し、新しいコマンドは使用できません。その代わり、PC-DMIS は未サポートコマンドを DOCUMENT コメントの内部に保存します。詳しくは、「編集ウィンドウの使用」章の「$$ドキュメント」を参照してください。

カスタムレポート、テンプレート、ラベルテンプレート、およびその他のレポートの修正は下位互換性が「ありません」。

参照として CAD ファイルを保存する

参照として CAD を元の CAD ファイルに保存するには、**参照として CAD を保存**チェックボックスを選択します。このオプションを使用して、新規ファイルをコピーするのではなくユーザーの CAD モデルを参照できます。この操作はディスクスペースの節約に役立ちます。CAD モデルを測定ルーチンに読込むときと**名前を付けて保存**ダイアログボックスにアクセスするときには常に、このオプションを選択できます。ユーザーが測定ルーチンを開こうとするとき、ソフトウェアが元の参照された CAD ファイルを見つけることができない場合 (CAD ファイルの名称変更、削除または保存場所の変更によって)、PC-DMIS はユーザーに元の CAD ファイルを探すように指示します。

測定ルーチンのアーカイブを使用した操作

PC-DMIS は基本的な測定ルーチンのアーカイブ機能を備えています。このアーカイブは、古いバージョンの PC-DMIS に存在していた自動ファイル保存機能に代わるものです。

以下のイベントでは 2 つの測定ルーチンのコピーがバックグラウンドで自動的に作成されます:

- <name>.prg^ は測定ルーチンを保存する直前に作成されます (ここで、<name> は測定ルーチンの名前です)。
- <name>.prg^ は測定ルーチンをロードする直前に作成されます (ここで、<name> は測定ルーチンの名前です)。

上記の PRG~ および PRG^ バックアップファイルには隠された属性セットがあり、「隠しファイルを表示」オプションを設定しない限り Windows Explorer に表示されません。

壊れた測定ルーチンを開こうとした場合、PC-DMIS は (<name>.prg~) を最後に保存する前に作成されたコピーを開くかどうか尋ねます。**はい**を選択すると、PC-DMIS は壊れた測定ルーチンの名前を <name>.prg.tmp に変え(デフォルトでは、これらのファイルは隠すように設定された隠し属性を持ち、「隠しファイルを表示する」オプションを適切に設定しない場合、Explorer ウィンドウには表示されません) 。これは <name>.prg~ を現在の測定ルーチンの名前に改名します。そのバックアップも壊れている場合、 PC-DMIS は最後のセッション中にユーザーが測定ルーチン(<name>.prg^) を読み込んだ直前に作成されたバックアップから復元するかどうかを問い合わせます。次に、これは同じ改名とコピーのプロセスを実行します。

他のバックアップ/復元プロセスと同様、復元中に最新の変更が失われる可能性があります。

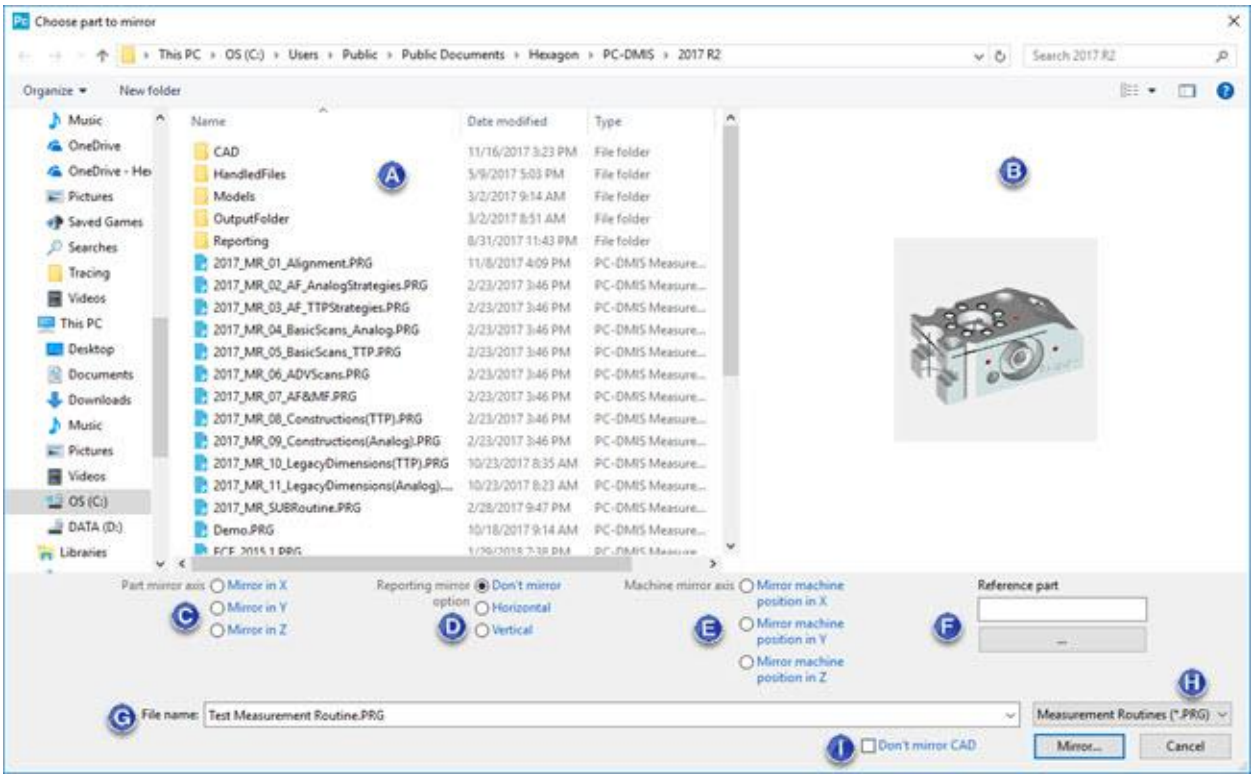
PC-DMIS Settings Editor の `DocumentRecovery` レジストリエントリを使用してこの機能を無効/有効にできます。

ファイル操作の実行

PC-DMIS のファイル操作で、測定ルーチン･ファイルのミラー、コピー、削除、改名及び検証ができます。

ミラー変換

ミラー コマンド(**ファイル| 操作| ミラー**) で、測定プログラムの X、 Y、Z 軸に鏡面対称の画像コピーを作成することができます。このコマンドは、[**ミラーリングするパーツを選択**]ダイアログボックスを開きます。



ミラーリングする部品を選択ダイアログボックス

次の説明はダイアログボックスで選択可能な項目について記述します。

A. **測定ルーチン** - このエリアでは、現在のディレクトリで使用可能なすべての測定ルーチンを表示します。

B. **プレビュー** - このエリアには、グラフィックの表示ウィンドウ (ラベルなし) におけるパートの最後のビューに対する CAD 画像が表示されます。測定品に CAD データがない場合、画像は測定された形状を表示します。この領域には、.prg ファイルの画像のみが表示されます。

C. **パーツのミラー軸** - このエリアは測定ルーチンをミラーする場合の軸を定義します。

- **X を軸とするミラー** - このオプションは、X を軸としてパーツをミラーリングします。
- **Y を軸とするミラー** - このオプションは、Y を軸としてパーツをミラーリングします。
- **Z を軸とするミラー** - このオプションは、Z を軸としてパーツをミラーリングします。

D. **ミラーオプションをレポート** - このエリアでは、PC-DMIS がレポート内で CAD イメージをどのようにミラーリングするかを定義します。

- **鏡面コピーせず** - このオプションは全くミラーリングしません。
- **水平** - このオプションは、CAD イメージを水平にミラーリングします。
- **垂直** - このオプションは CAD 画像を垂直にミラーリングします。

このエリアは CADReportObjects、CADImageObjects、分析オブジェクト、および SectionCutObjects といったレポートオブジェクトのほか、測定ルーチンで定義された任意のビューセットにも影響します。

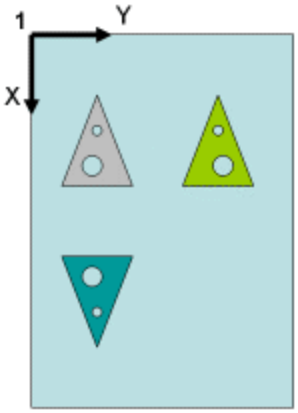
E. **測定機の鏡面反射軸** - このエリアは、仮想マシン上のミラーリングされた部品の向きを定義します。

- **X に測定機の鏡面反射** - このオプションは、仮想測定機を X 軸に鏡面反射します。
- **Y に測定機の鏡面反射** - このオプションは、仮想測定機を Y 軸に鏡面反射します。

- **Z に測定機の鏡面反射** - このオプションは、仮想測定機を Z 軸に鏡面反射します。

PC-DMIS はオリジナルパーツと同じ位置でパーツをミラー変換するようになりました。**測定機のミラー軸** エリアを使用して、仮想測定機にあるミラー後のパーツの方向を定義することができます。機械に測定される場所へパーツをシフトする必要があります。

これらのオプションがパーツを配置する方法については、以下の図を参照してください：



1 - 測定機の原点

- 変換元パーツ

- 仮想測定機の Y 軸でパーツを Y 軸ミラー変換

- 仮想測定機の X 軸でパーツを Y 軸ミラー変換

F. **参照パーツ** - このボックスでは、基準パーツからクイック固定具アラインメントデータを取り出し、その情報をミラー変換操作に使用します。

このエリアを使用して参照部品を定義すると、PC-DMIS は**測定機のミラー軸**エリアを使用しません。代わりに、ミラー後のパーツの位置と方向が既存の (かつミラー変換後の) 参照測定ルーチンよりロードされます。

このオプションは、複数の測定ルーチンが同一の物理パーツに属し、それらをミラー変換する場合に特に役に立ちます。この場合、最初にミラーされた測定ルーチンのミラーパーツの位置と方向を定義するだけで済みます。次に、最初のミラーリングされた測定ルーチンを基準部品として選択して、他の測定ルーチンを反映させることができます。

G. **ファイル名** - このボックスはミラーリングする測定ルーチンを定義します。

H. このファイルタイプ一覧は、測定ルーチンファイル (.PRG) のみを表示するように現在のディレクトリの表示をフィルタリングします。

I. **CAD を鏡映しない** - このチェックボックスは、得られた CAD が鏡映されているかどうかを決定します。このチェックボックスをオンにすると、結果の CAD はミラー化されません。このチェックボックスは、PC-DMIS を初めて起動される時にクリアされます。その後、このチェックボックスは、最後の鏡映で適用された状態を保持します。

PC-DMIS Settings Editor を使用して、**オプション**セクションで `DoNotMirrorCAD` レジストリエントリの値を変更することができます。

測定ルーチンをミラーするには：

1. 測定ルーチンに無限リストを使用する場合、最初に `AlternateTipMirror` 登録エントリーを TRUE に設定します。このエントリーは PC-DMIS 設定エディタの[**ユーザーオプション**]セクションにあります。このエントリーは、プローブへ

ッドが AB 角度の 1 つまたは複数の可能な組み合わせを提供してミラーされた先端ベクトルを生成するケースにおいて、PC-DMIS が正しい AB 角度を選択するのに役立ちます。

2. [**ファイル|操作|ミラー**]を選択して、**ミラーリングする部品を選択**ダイアログボックスを開きます。
3. ミラーする測定ルーチンを選択します。
4. **パーツミラー軸** エリアから、ミラー軸を選択します。
5. **ミラー変換オプションの表示** エリアから、レポートに CAD 画像をミラーリングしたい方法を選択します。
6. **[測定機のミラー軸]**エリアより、グラフィックの表示ウィンドウに表示される仮想測定機の上にミラーパーツをどのように位置付けるか定義します。
7. 参照パーツをすでにミラーしていた場合には、**参照パーツ** エリアで**ブラウズ**ボタンを使用します。このボックスは参照パートからクイックフィクスチャ アラインメント・データを取り出してミラーしている操作にその情報を使用します。
8. **[ミラー]**ボタンをクリックすると**[名前を付けてミラーパートを保存]**ダイアログボックスが開き、ミラー変換用に選択した測定ルーチンのファイル名が表示されます。

9. 測定ルーチンを保存したいディレクトリに移動して**[保存]**ボタンをクリックします。PC-DMIS が測定ルーチンをミラー変換し、そのディレクトリに保存します。必要なファイルをコピーするのに多少時間がかかる場合があります。

PC-DMIS はプローブの AB 先端角度のミラー変換も試みます。使用するプローブが正確にミラー変換され、定義、校正されたチップ角度を持たない場合、PC-DMIS は直近の校正済みチップ角度を選択します。校正済みのチップ角度が存在すれば、それが**セットアップオプション**ダイアログボックスの**パーツ/測定機**タブにある**手首警告デルタ**ボックスで指定した角度内にある場合、近くにある校正済みのチップ角度を選択します。近くに校正済みの AB チップ角が存在しない場合、PC-DMIS は未校正の AB チップ角を完全にミラーしたイメージを作成します。「優先設定」の章の「セットアップオプション: パーツ/測定機 タブ」トピックを参照して下さい。

コピー

コピーコマンドでは、指定された測定プログラムに関連するすべてのファイルをコピーすることができます。

測定ルーチンをコピーするには、次のステップを実行します：

1. [**ファイル|操作| コピー**]メニュー項目を選択して、[**パーツファイルのコピー元**]ダイアログボックスを開きます。
2. ディレクトリ構造をナビゲートして測定ルーチンを選択します。
3. **コピー**ボタンをクリックして、**パートファイルのコピー先**ダイアログを表示します。
4. コピーしたい測定プログラムをクリックすると、**ファイル名**ボックスにそのファイル名と拡張子が表示されます。
5. 測定ルーチンをコピーしたいフォルダに移動します。
6. **保存**ボタンをクリックします。

下記のファイルがコピーされます：

- .prg
- .cad

- .001、.002、…、.999 の範囲の同じベース名と拡張子を持つ任意ファイル
- 存在する場合、<*測定プログラム名*>.MiniRoutines.xml
- <*測定ルーチン名*> .QdasData.xml (存在する場合)

削除する

削除コマンドでは、測定プログラムに関連するすべてのファイルを削除することができます。

測定ルーチンを削除するには：

1. [**ファイル|操作| 削除**]メニュー項目を選択して、[**パーツファイルの削除**]ダイアログボックスを開きます。
2. 削除する測定プログラムを選択します。
3. **削除** ボタンをクリックして下さい。PC-DMIS は、このファイルをゴミ箱に送ってよいか尋ねるメッセージを表示します。
4. **はい** ボタンをクリックして下さい。

下記ファイルが削除されます：

- .prg
- .cad
- .001、.002、 …、.999 の同じベース名と拡張子を持つ任意ファイル
- 存在する場合、<*測定プログラム名*>.MiniRoutines.xml
- <*測定ルーチン名*> .QdasData.xml (存在する場合)

削除されたファイルはゴミ箱へ移されます。

改名

名称変更コマンドでは、測定プログラムに関連するすべてのファイルの名称を変更することができます。

測定ルーチンの名前を変更するには：

1. [**ファイル|操作| 改名**]メニュー項目を選択して、[**パーツファイルを改名**]ダイアログボックスを開きます。
2. 名前を変更する測定プログラムを選択します。
3. [**改名**]ボタンをクリックして、[**パーツファイルの改名先**]ダイアログボックスを開きます。
4. **ファイル名**ボックスに、新しいファイルの名称をタイプ入力して下さい。
5. **保存**ボタンをクリックします。即座に名称変更が適用されあます。

下記ファイルが名称変更されます：

- .prg
- .cad
- .001、.002、…、.999 の範囲の同じベース名と拡張子を持つ任意ファイル
- 存在する場合、<*測定プログラム名*>.MiniRoutines.xml
- <*測定ルーチン名*> .QdasData.xml（存在する場合）

査証

検証コマンド（**ファイル | 操作 | 認証**）を使用すると、測定ルーチンを認証し、それらに関連するコメントを追加できます。また、**ファイル操作**ツールバーの**認証**ボタン ( ) をクリックすることもできます。

検証済の測定ルーチンは、スーパーバイザー (保護スーパーバイザーグループのメンバー) によって検証された測定ルーチンです。この測定ルーチンは、製造に使用するための内部要件を満たしています。保護アプリケーションを使用すると次のように、この測定ルーチンに対する変更をコントロールおよび追跡できます。

- すべての内部組織要件
- 外部から課された特定のプロセス認証要件（ISO や FDA など）

Protect Viewer のインストーラ (PC-DMIS インストーラに付属) は、コンピュータの**ローカルユーザーおよびグループ**フォルダに **Protect プログラマー**および **Protect スーパーバイザー**グループを作成します。

- **Protect プログラマー**グループのユーザーは、認証を行うスーパーバイザーに対する測定ルーチンの提案を提出したり取り消すことができます。また、彼らは測定ルーチンを編集することもできます。
- **Protect スーパーバイザー**グループのユーザーは測定ルーチンを編集、認証および拒絶することができます。

ユーザーが **Protect プログラマー**または **Protect スパーバイザー**グループのいずれかのメンバーでない場合、保護モードで認証済みの測定ルーチンを開いたり表示したり実行することができます。但し、認証済みの測定ルーチンを認証したり編集することはできません。

ユーザーが **Protect プログラマー**および **Protect スーパーバイザー**グループの両方のメンバーである場合、PC-DMIS はそのユーザーをスーパーバイザーであるとみなします。

Protect プログラマーまたは **Protect スーパーバイザー**グループにユーザー名の追加や削除などの変更を加える場合は、コンピュータの管理者に連絡してください。

保護プログラマーグループへのユーザまたはグループの追加

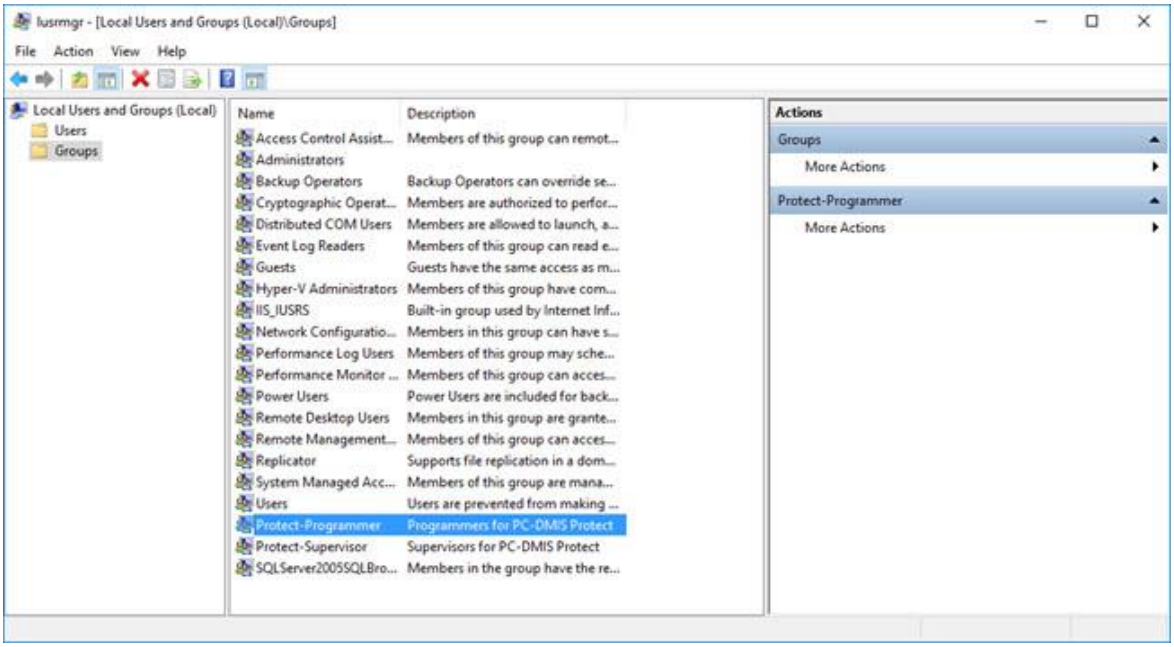
ユーザーまたはグループを Protect プロラマーグループに追加するには、次の手順に従います：

前提条件：

- LMS ライセンスの保護
- コンピュータへの管理者アクセス

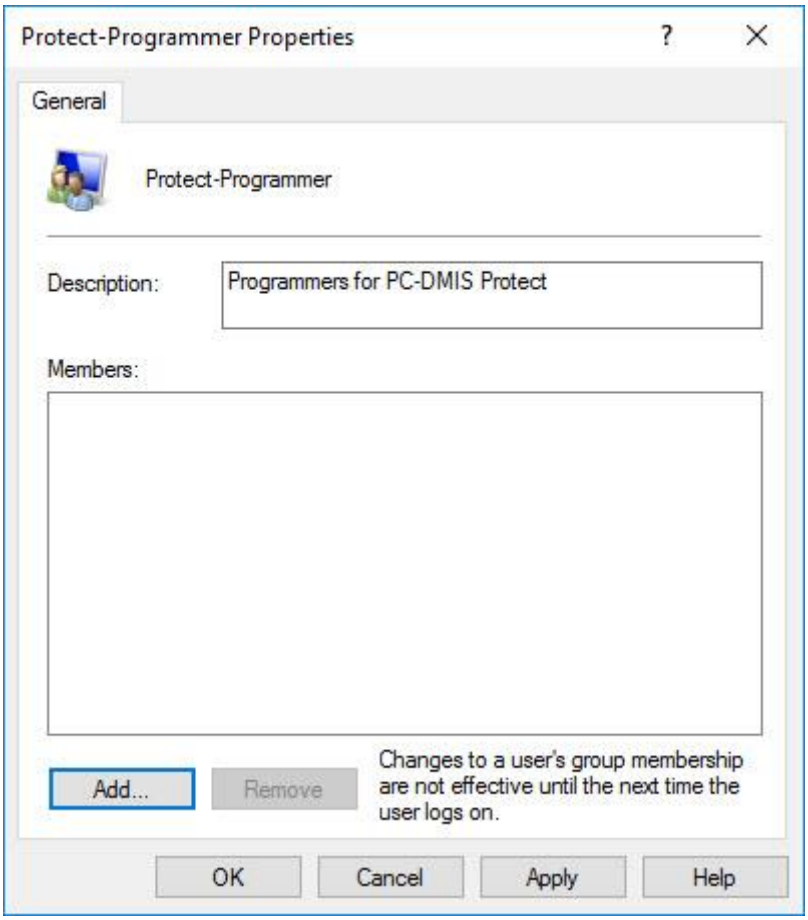
1. Protect Viewer (保護ビューワ) のインストーラ (PC-DMIS インストーラに含まれています) をインストールします。これによって、コンピュータの**ローカルユーザーおよびグループ**フォルダに **Protect プログラマー**または **Protect スーパーバイザー**グループが作成されます。
2. [**ローカルユーザーとグループの編集**]ダイアログボックスを開くには、次の 2 つの方法のいずれかを実行します：
   - タスクバーの検索ボックスに「**ローカル**」と入力し、結果から[**ローカルユーザーとグループの編集**]を選択します。
   - Windows + R を押します。[**実行**]ダイアログボックスで、「**lusrmgr.msc**」と入力して、[**OK**]をクリックします。

3. 左ペインで [**グループ**] をクリックします。これによって、コンピュータ上のグループ一覧が表示されます。グループ一覧は **Protect プログラマー**グループと **Protect スーパーバイザー**グループから成ります。



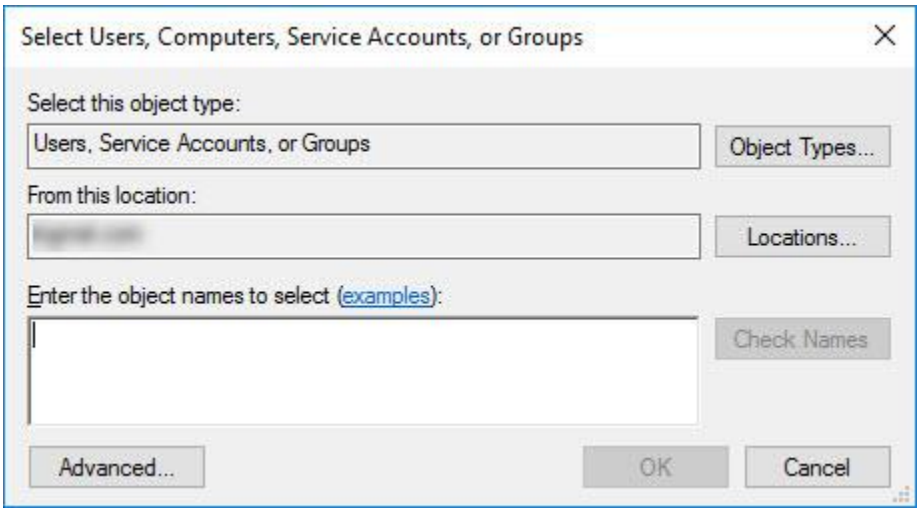
保護プログラマーグループを備える[ローカルユーザーとグループ]画面

4. **保護プログラマー**をダブルクリックして、**保護プログラマーのプロパティ**ダイアログボックスを開きます。

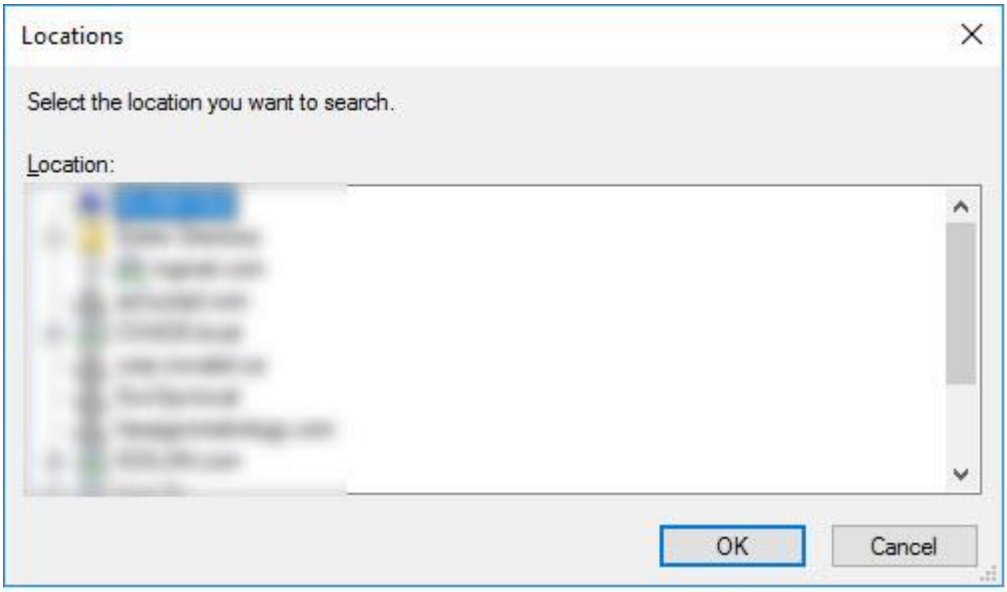


保護プログラマのプロパティダイアログボックス

5. **[保護プログラマのプロパティ]**ダイアログボックスで、**[追加]**をクリックして**[ユーザー、コンピュータ、サービス･アカウント、またはグループの選択]**ダイアログボックスを開きます。



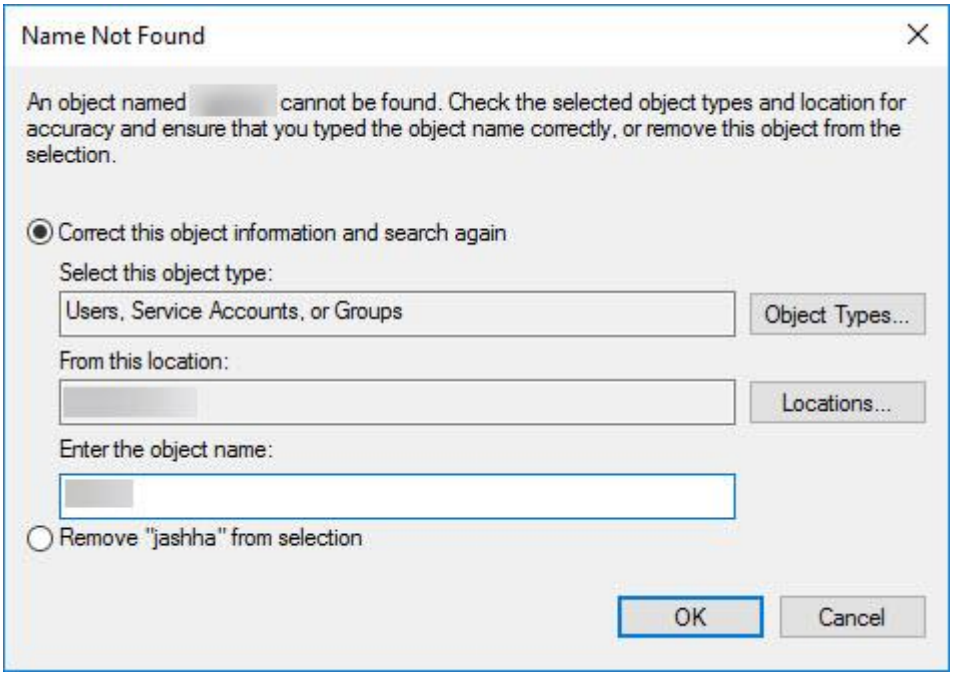
6. [**ユーザー、コンピュータ、サービスアカウント、またはグループの選択**]ダイアログボックスで、[**場所**]をクリックして[**場所**]ダイアログボックスを開きます。アカウントをネットワークユーザーまたはローカルユーザーとして接続できます。



- アカウントをネットワークユーザーとして接続するには、[**場所**]ダイアログボックスからネットワークの場所を選択します。[**OK**]をクリックして[**場所**]ダイアログボックスを閉じます。

- ローカルユーザーとしてアカウントを接続するには、[**場所**]ダイアログボックスからコンピューター名を選択します。[**OK**]をクリックして[**場所**]ダイアログボックスを閉じます。

7. [**ユーザー、コンピュータ、サービスアカウント、またはグループの選択**]ダイアログボックスの[**選択するオブジェクト名を入力**]ボックスにユーザー名を入力し、[**名前の確認**]をクリックします。自分のユーザー名が一覧表になく、ユーザーのコンピュータが会社のネットワークの一部である場合、自分がそのネットワークに接続されていることを確認してください。ユーザーが会社のネットワークの外側にいる場合、VPN を介して接続する必要があります。
    - ネットワークに接続している場合は、ボックスにネットワーク名を表示するエントリが表示されます。
    - ユーザーがネットワークに接続されていない場合、**名前が見つかりません**画面が表示されます。



[名前が見つかりません] 画面

ローカルグループまたはネットワークグループを**保護プログラマー**グループに追加することもできます。これにより、そのローカルグループまたはネットワークグループ内のすべてのメンバーが保護プログラマーグループに追加されます。

8. [**OK**]をクリックして[**ユーザー、コンピュータ、サービスアカウントまたはグループの選択**]ダイアログボックスを閉じます。**Protect プログラマのプロパティ**ダイアログボックスの**メンバー**エリアに、ステップ 6 で追加したユーザー名またはグループが表示されます。
9. [**OK**]をクリックして[**保護プログラマーのプロパティ**]ダイアログボックスを閉じます。
10. 変更を適用するには、Windows からサインアウトして再度サインインする必要があります。

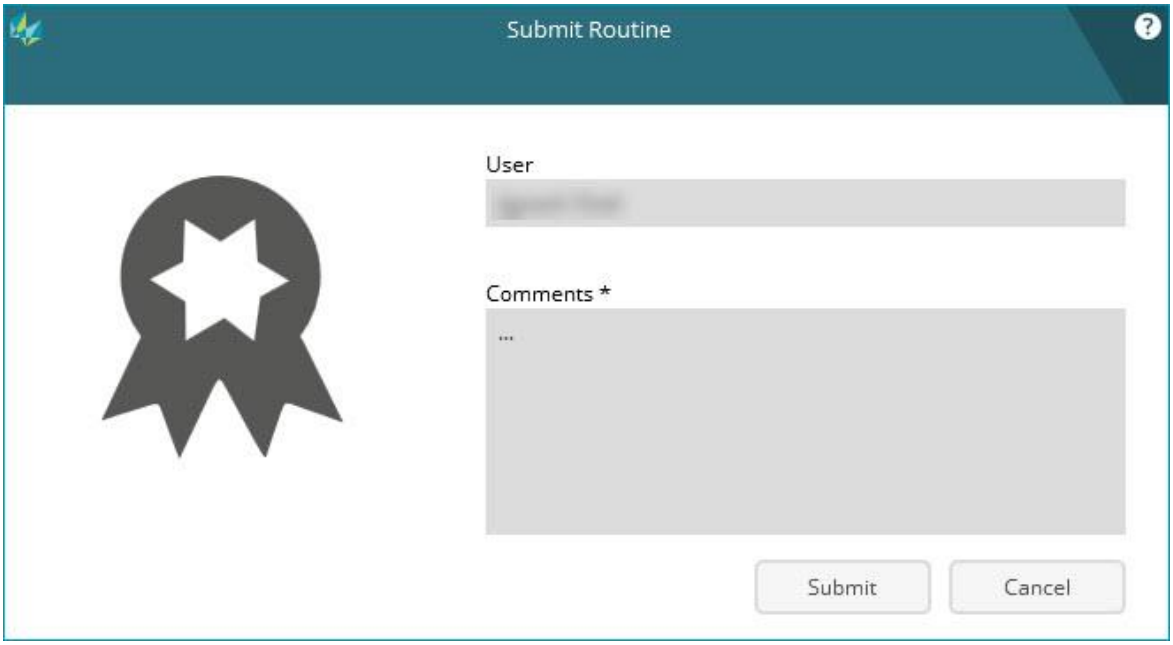
ユーザーまたはグループが Protect プログラマーグループに正常に追加されました。同じ手順に従ってユーザーまたはグループを Protect スーパーバイザーグループに追加することができます。

Protect プログラマーまたは Protect スーパーバイザーグループに変更を加えるたびに、Windows からサインアウトして再度サインインし、それらの変更を適用する必要があります。Protect プログラマーまたは Protect スーパーバイザーグループにネットワークグループを追加した後、そのネットワークグループに変更を加えた場合は、ネットワークに接続してそれらの変更を適用する必要があります。

[ルーチンの提出とルーチンの提出の取り消し] ダイアログボックス

提出および**提出の取り消し**ボタンは、ユーザーが **Protect プログラマー**グループに属しており、Protect の LMS ライセンスが有効である場合に使用できます。

提出ボタン ( ) は**ルーチンの提出**ダイアログボックスを開きます。



[ルーチンの提出] ダイアログボックス

ユーザー - このボックスには、ネットワーク上のユーザー名が表示されます。

コメント - このボックスでは、認証のために測定ルーチンを提出する前に、関連する任意のコメントを入力することができます。

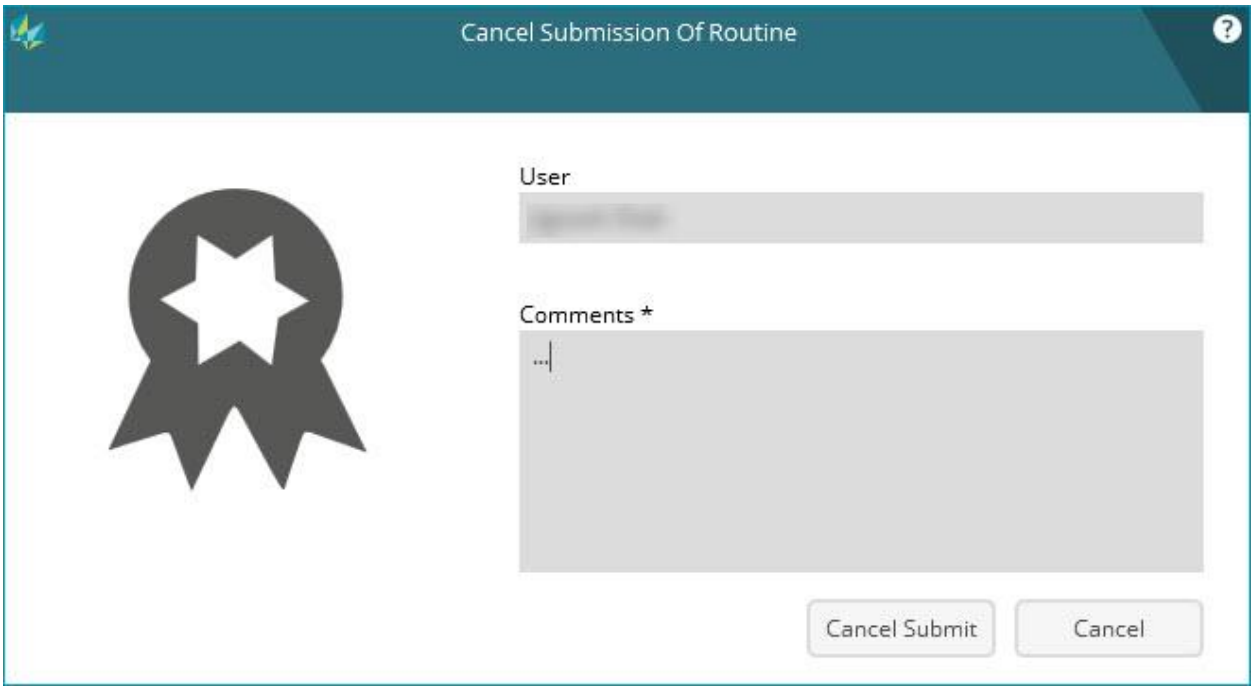
提出 - このボタンは測定ルーチンを提出して保存し、ダイアログボックスを閉じて、.protect ファイルを生成します。ファイルの名前は<測定ルーチンのファイル名>.PRG.protect です。ここで、<測定ルーチンの名前>は測定ルーチンファイルの名前です。ソフトウェアは測定ルーチンと同じフォルダーに.protect ファイルを生成します。デフォルトのフォルダー位置を下記に示します。

C:\Users\Public\Documents\Hexagon\PC-DMIS\<version>

<バージョン> とは PC-DMIS のバージョンを意味します。

キャンセル - このボタンを押すとすべての変更を無視し、ダイアログボックスを閉じます。

提出の取り消しボタン ( ) は**ルーチンの提出の取り消し**ダイアログボックスを開きます。



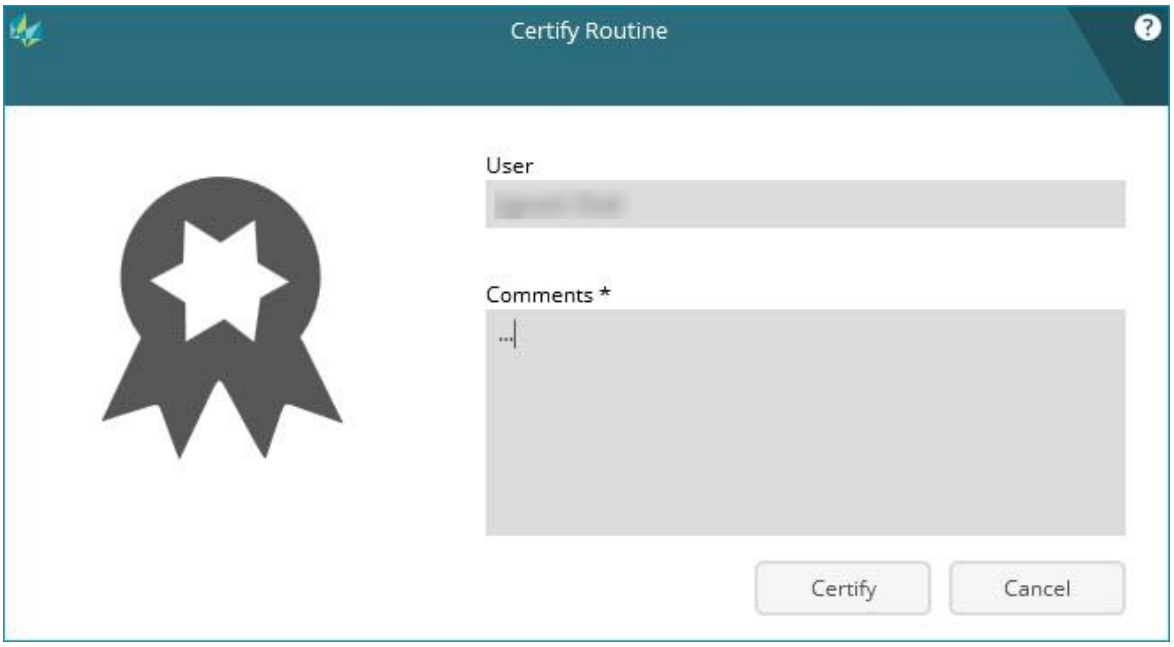
[ルーチンの提出の取り消し] ダイアログボックス

提出の取り消し - このボタンは測定ルーチンの提出を取り消します。プログラマーは認証プロセスのために測定ルーチンを再提出する必要があります。

[ルーチンの認証とルーチンの拒絶] ダイアログボックス

認証コマンドは、ユーザーが **Protect スーパーバイザ** - グループに属しており、Protect LMS ライセンスが有効になっている場合に使用できます。

[**認証**]コマンド (**ファイル | 操作 | 認証**) を選択すると、[**ルーチンの認証**]ダイアログボックスが開きます。また、**ファイル操作**ツールバーの**認証**ボタン ( ) をクリックすることもできます。



ルーチンの認証ダイアログボックス

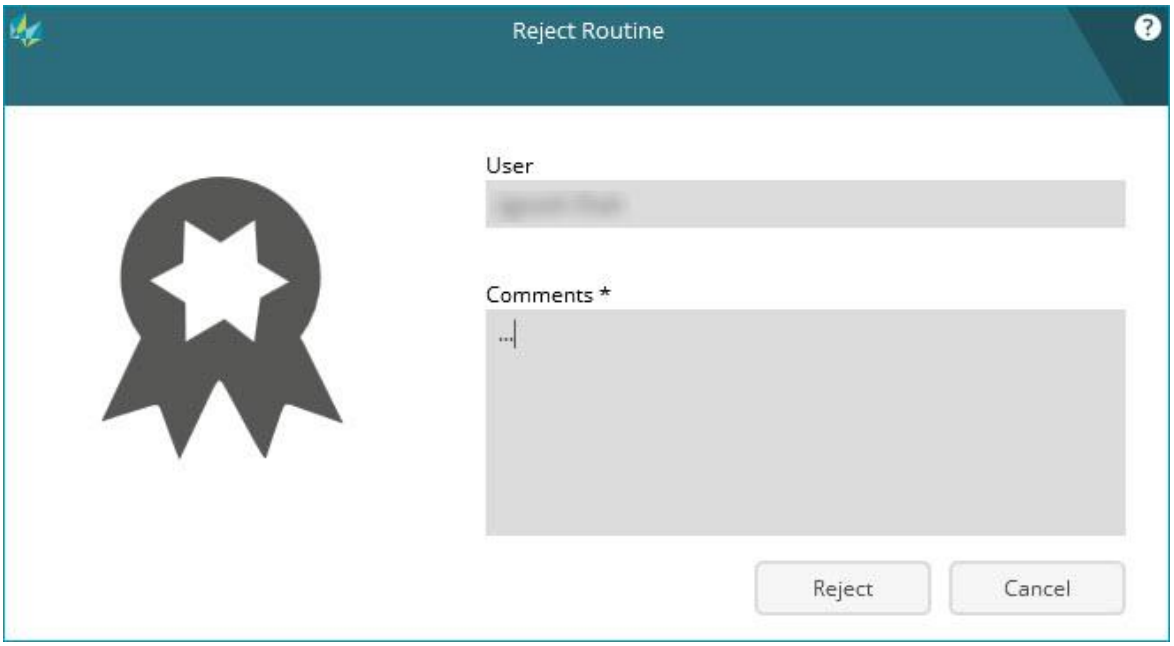
認証 - このボタンは測定ルーチンを認証して保存し、ダイアログボックスを閉じます。プログラマーからの提出なしで測定ルーチンを直接認証する場合、このボタンは.protect ファイルを生成します。ファイル名は<測定ルーチンのファイル名>.PRG.protect です。ここで、<測定ルーチンのファイル名>は測定ルーチンのフ

ァイルの名前です。ソフトウェアは測定ルーチンと同じフォルダーに.protect ファイルを生成します。保存されるフォルダーを指定します：

C:\Users\Public\Documents\Hexagon\PC-DMIS\<version>

<バージョン> とは PC-DMIS のバージョンを意味します。

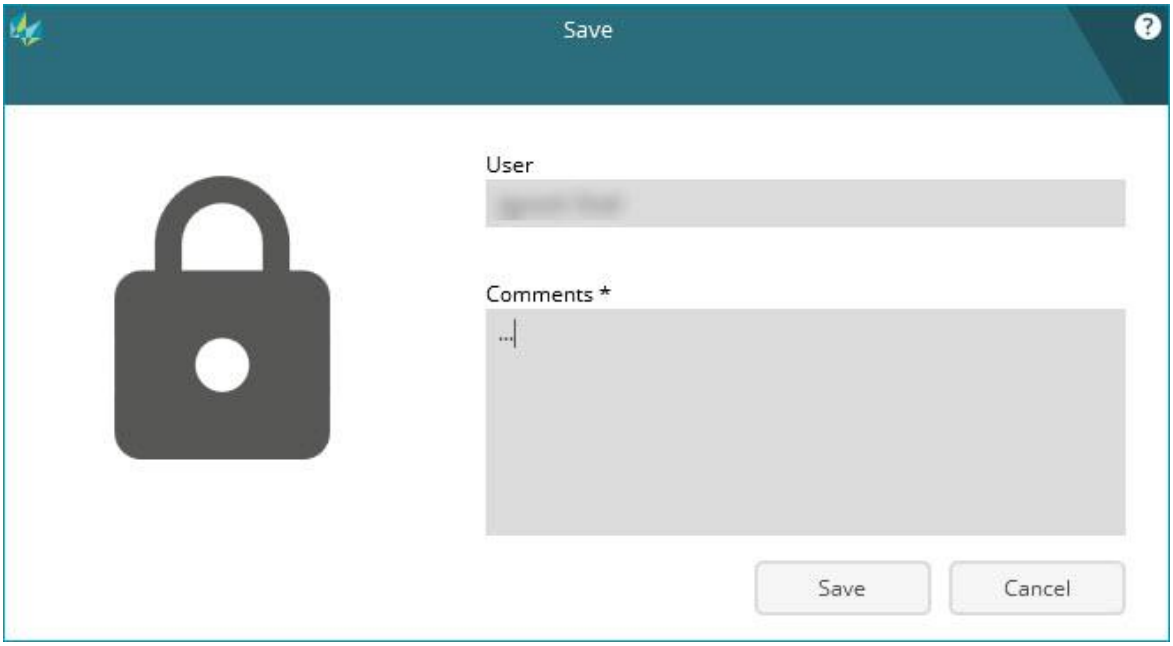
拒絶ボタン ( ) は**ルーチンの拒絶**ダイアログボックスを開きます。このボタンはプログラマーが認証プロセスのために測定ルーチンを提出しているときにのみ使用できます。



[ルーチンの拒絶] ダイアログボックス

拒絶 - このボタンは測定ルーチンの提出を拒絶します。プログラマーは認証プロセスのために測定ルーチンを再提出する必要があります。

測定ルーチンの認証後、**Protect スーパーバイザー**または **Protect プログラマー**グループに属するすべての人に対して**保存**ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスは、寸法に関連する測定ルーチンに加えられた変更を保存する場合にのみ表示されます。



保存ダイアログ ボックス

保存ダイアログボックスは、**ルーチンの認証**ダイアログボックスに似ています。唯一の違いは、[**保存**]ダイアログボックスに[**認証**]ボタンの代わりに[**保存**]ボタンがあることです。

[**保存**]ボタンをクリックすると、測定ルーチンで行われたすべての変更とともにコメントが.protect ファイルに保存されます。

PC-DMIS 2018 R2 以前で検証済みの測定ルーチンを開くと、認証は利用できません。測定ルーチンは通常の測定ルーチンと同様に開きます。

.protect ファイルを認証および表示する手順

次のステップで測定ルーチンを認証し、.protect ファイルを作成します。保護ビューアアプリケーションを使用すると、.protect ファイルを表示することができます。保護ビューアアプリケーションについては、保護ビューのヘルプファイルを参照してください。

.protect ファイルを認証して表示するには、次の手順に従います：

前提条件

- 測定ルーチンを認証するには、**Protect スーパーバイザー**グループのメンバーであり、Protecet Viewer LMS ライセンスが有効 r になっている必要があります。
- .protect ファイルを表示するには、コンピュータに「保護ビューア」アプリケーションがインストールされている必要があります。

1. 測定ルーチンを新規作成します。
2. 測定を検証します。これを行うには、[**ファイル|操作|認証**]をクリックするか、または、[**ファイルの操作**]ツールバー（[**表示|ツールバー|ファイルの操**]）から、[**認証**]（ ）をクリックします。ソフトウェアが[**ルーチンの認証**]ダイアログボックスを開きます。
3. [**ルーチンの認証**]ダイアログボックスの[**コメント**]ボックスに、コメントを入力して[**認証**]をクリックします。この手順では、測定ルーチンを保存および認証し、.protect ファイルを生成します。
4. 新しい.protect ファイルを見つけます。測定ルーチンのファイル名と同じ名前で、拡張子.protect が付いています。

測定ルーチンのファイル名が ABC.PRG の場合、.protect ファイル名は ABC.PRG.protect です。

5. .protect ファイルをダブルクリックするか、または[**開く**]を右クリックして選択し、Protect Viewer アプリケーションでファイルを開きます。Protect Viewer の詳細については、Protect Viewer アプリケーションを参照してください。

認証済の測定ルーチンを編集するには、ユーザーは Protect スーパーバイザーまたは Protect プログラマーグループに属している必要があります。

他のすべてのユーザータイプに対しては、PC-DMIS は認定済の測定ルーチンを保護モードで開きます。保護モードでは、測定ルーチンしか実行できません。保護モードを無効にすることはできません。保護モードの情報については、「保護モードの効果」および「可視なインジケータ」を参照してください。

言語の変更

ファイル|言語メニューは、製品で支援されている言語を表示します。チェックマークは、現在の言語を示します。新しい言語に切り替えるには、**ファイル |言語**を選択して、目的の言語を選択します。PC-DMIS は自動的にユーザの仕事を保存し、ソフトウエアを終了してから、再起動します。再起動後、PC-DMIS は新しく選択した言語で作動します。

言語ヘルプの内容

PC-DMIS は、メイン･インストレーションのプロセスに支援された言語用のユーザ･インターフェース資源をすべて自動的にインストールします。ただし、英語以外のオフライン･ヘルプ･ファイルの内容を表示するには、個別にそれをインストールする必要があります。オンライン･ヘルプの内容はインターネット経由で入手できます。

オフラインの言語ヘルプ･ファイルは必要に応じて言語パックフォルダーに移動し、適切な言語の実行ファイルを実行することでインストール可能です。

言語ヘルプファイルをインストールするには：

1. PC-DMIS インストーラのメインダウンロードの言語フォルダに移動します。(<Product_Installer_Folder>\lang)。
2. 目的の言語パック実行ファイルを実行して言語ヘルプファイルをインストールします。

これにより、PC-DMIS インストールの下の言語ディレクトリに **helpcenter** フォルダがインストールされます。

Teamcenter への接続

ファイル| Teamcenter を使って、Teamcenter のソフトウェアへの接続を有効または無効にすることができます。Teamcenter は Siemens 社によって開発された MMS(メトロロジー・マネジメントシステム)データベース・パッケージです。

ファイル | Teamcenter メニューが表示されるようにするには、Teamcenter オプションをユーザーのライセンスに追加する必要があります。

Teamcenter メニューは以下のオプションから成ります:

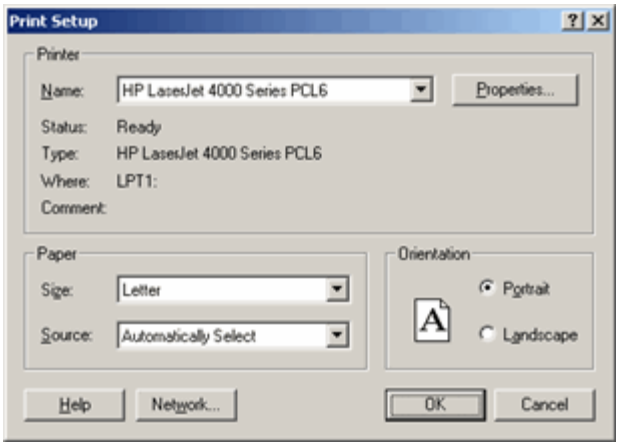
On - Teamcenter との接続を有効にします。これによって、ソフトウェアにおける通常の**名前を付けて保存**および **開く** ダイアログボックスが Teamcenter で動作するように変更されます。ソフトウェアが Teamcenter に接続できない場合、逆にデフォルトの **Off** になり、通常の**名前を付けて保存**および**開く** ダイアログボックスが使用されます。

Off - Teamcenter との接続を無効にします。この場合、通常の**名前を付けて保存**および**開く** ダイアログボックスが使用されます。

Teamcenter での動作について詳しくは、「直接 CAD インタフェースおよび変換器」文書の「Teamcenter の使用」を参照してください。

プリンタ オプションの設定

[プリンターの設定]ボタンと**[ファイル印刷 | プリンターの設定]**メニュー項目で、標準的な Windows の**印刷設定**ダイアログ ボックスにアクセスできます。このダイアログ ボックスにより、入手可能なプリンター間での切り換え、印刷用紙サイズとページの向きについての選択、及び他のプリンター プロパティへのアクセスが可能です。その後、PC-DMIS は、これらの選択されたオプションに基づき、編集ウィンドウ、検査レポート、またはグラフィックス表示ウィンドウを印刷します。



A Sample Print Setup Dialog Box

このダイアログ ボックスと入手可能なオプションに関する情報については、お手持ちの Windows オペレーション システムに付随のヘルプ ファイルをご覧下さい。さらに高度の、プリンター特定のプロパティについては、お手持ちのプリンター専用の文書を参照する必要があるか、と思われます。

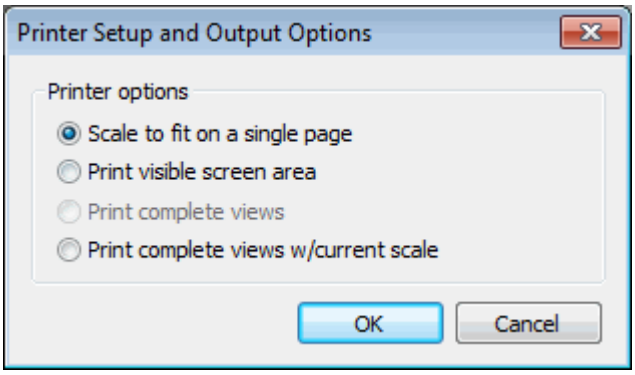
グラフィックの表示ウィンドウの印刷

PC-DMIS はグラフィックの表示ウィンドウの現在の内容をプリンターに送信することができます。**ファイル|印刷|グラフィックウィンドウの印刷**を選択して、Windows **印刷の設定**ダイアログボックスを表示します。**OK** をクリックして、ダイアログボックスに表示されたプリンターにレポートを送信します。

印刷前に、出力オプションを設定し、印刷作業のプレビューをすることができます。

グラフィックの表示ウィンドウ用の出力設定とプリンタオプション設定

[ファイル | 印刷 | グラフィックウィンドウの印刷設定] メニューオプションを選択すると、**[プリンタ設定および出力オプション]**ダイアログ ボックスが表示されます。



プリンター設定と出力オプションダイアログ ボックス

ダイアログ ボックスを使用してプリンターおよび様々な表示オプションを設定します。**[プリンターオプション]**エリアで使用可能なオプションでは、印刷されるグラフィック表示のタイプを選択できます。以下が含まれます。

１ページに合わせて表示 - このオプションでは、任意のグラフィックイメージを 1 つのページに合わせて表示します。

可視な画面領域を印刷 - このオプションは、現在表示されている画面領域のみを印刷します。要素をズームインした場合、パーツ全体ではなく画面に表示されている部分のみが印刷されます。

ビュー全体を印刷 - このオプションでは、**[ビューの設定]**ダイアログ ボックスの**[レイアウト]**エリアで定義された各画像を、ページごとに印刷します。例えば、グラフィックス表示ウィンドウ上に Z+画像と Y-画像が表示されている場合、PC-DMIS は、Z+画

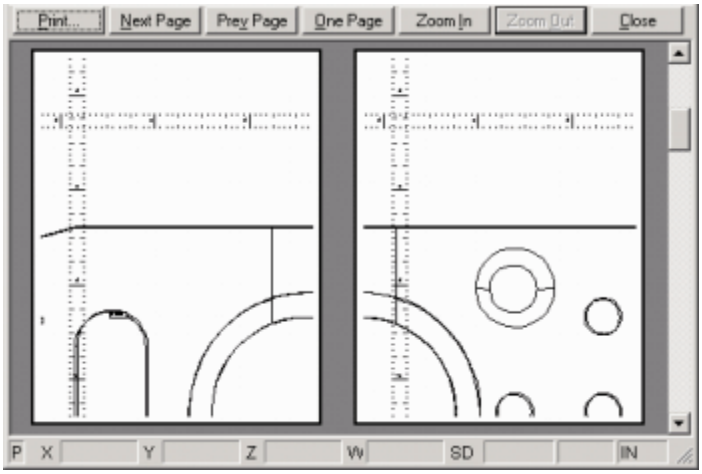
像を１ページに、そして、Y-画像を他の１ページに、これらの画像をそれぞれ別々の２ページに印刷します。

ビュー全体を現在のスケールで印刷 - このオプションは、画像が現在のスケールで印刷されることを除き、**[ビュー全体を印刷]**オプションと同様に機能します。画像にズームインしている場合、PC-DMIS は画像全体を印刷しますが、画像は複数ページに分割されます。

OK ボタンをクリックして変更を保存します。

印刷作業のプレビュー

ファイル| 印刷| グラフィックウィンドウ印刷プレビューは、グラフィック表示ウィンドウから印刷されたものをプレビューします。印刷プレビュー ウィンドウが現れます。



グラフィックの表示ウィンドウの内容を表示した印刷プレビュー ウィンドウ

ウィンドウ上部のボタンは以下の機能を行います：

印刷ボタンは、標準の**印刷セットアップ**ダイアログボックスを開き、印刷ジョブをプリンターに送ることができます。

次ページと**前ページ**ボタンを使うと、複数ページの印刷ジョブの各ページを順番に表示することができます。

1 ページまたは **2 ページ**トグル ボタンでは、印刷プレビュー ウィンドウ上に一度に表示するページ数を決定できます。

ズームインおよび**ズームアウト**ボタンでは、印刷プレビュー ウィンドウ上で一つのページを素早く表示させることができます。このズーム操作は、プリンタへ送られる印刷内容に影響しません。

閉じるボタンは、印刷プレビュー ウィンドウを閉じます。

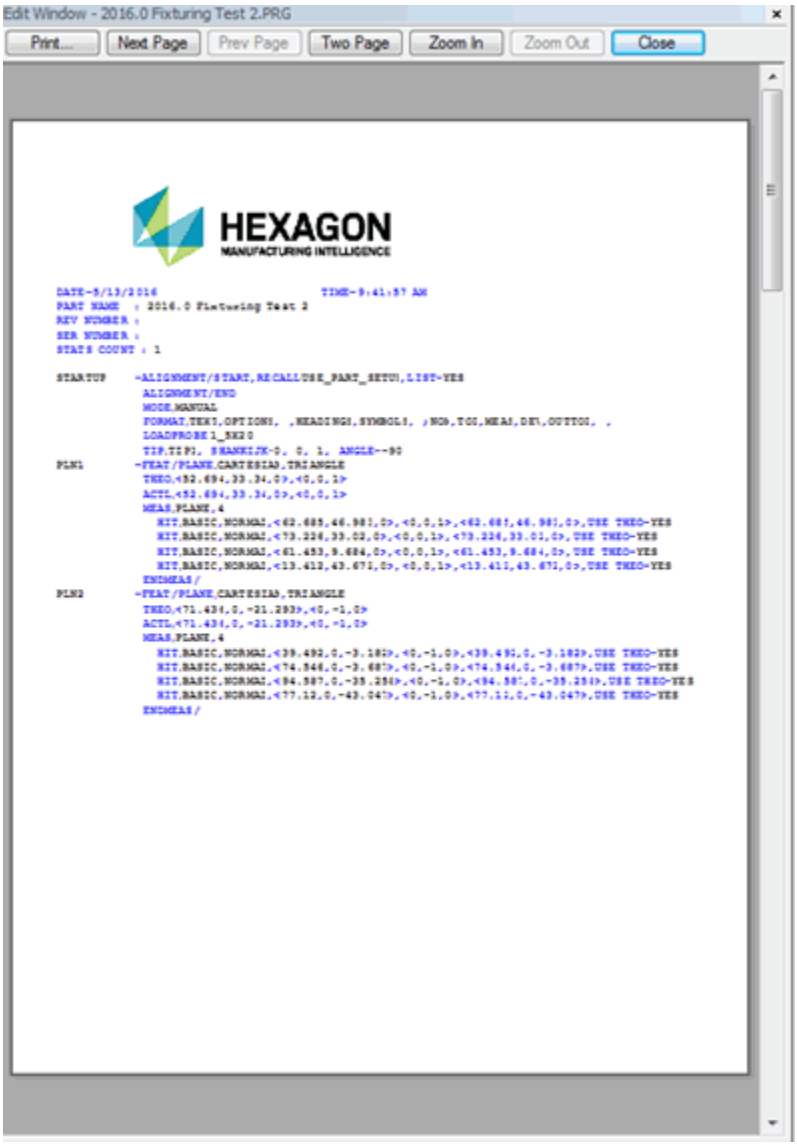
編集ウィンドウの印刷

以下の方法で、編集ウィンドウの内容をお手持ちのプリンターに送ることができます:

- [**ファイル | 印刷 | 編集ウィンドウの印刷**]を選択してください。
- **編集ウィンドウ** ツール バーにある **印刷**アイコンをクリックして下さい。
- F4 を押して下さい。

印刷作業のプレビュー

プリントアウトがどのようになるかプレビューするには、[**ファイル | 印刷 | 編集ウィンドウの印刷プレビュー**]を選択してください。印刷プレビュー ウィンドウが現れます。



編集ウィンドウの内容を表示する印刷プレビューウィンドウ

ウィンドウ上部のボタンは以下の機能を行います：

- **印刷**ボタンは標準の**印刷設定**ダイアログボックスを開きます。これによって、ユーザーは印刷ジョブをプリンターに送ることができます。
- **次ページ**と**前ページ**ボタンを使うと、複数ページの印刷ジョブの各ページを順番に表示することができます。
- **1 ページ**または **2 ページ**トグルボタンはプレビュー ウィンドウ上に一度に表示されるページ数を決定します。

- **ズームイン**および**ズームアウト**ボタンでは、印刷プレビュー ウィンドウ上で一つのページを素早く表示させることができます。このズーム操作は、プリンタへ送られる印刷内容に影響しません。
- **閉じる**ボタンは、印刷プレビュー ウィンドウを閉じます。

編集ウィンドウの内容を印刷するときは、(Courier New など) TrueType フォントを使用する必要があります。そうしないと文字や線が期待通りに並ばない可能性があります。編集ウィンドウとレポートで使用されるフォントを変更するには、「ユーザーインタフェースの使用」章にある「ユーザー･インタフェースのフォントをカスタマイズすること」を参照してください。

サマリーモードでの印刷

要約モードで[編集]ウィンドウを表示する場合、[編集]ウィンドウに表示されているとおりに印刷されます。編集ウィンドウでグループが折りたたまれている場合、そのグループは折りたたまれていると表示されます。

出力オプションの設定

レポートの出力に使用するのと同じ**出力設定**ダイアログボックスから、編集ウィンドウの印刷タスクの出力オプションを設定できます。**出力設定**ダイアログボックスでのオプションについて詳しくは、「レポートウィンドウでの出力およびプリンタオプションの設定」を参照してください。

プリンタの変更、ページ方向の設定またはその他のプリンタオプションの変更を行うには、**ファイル | 印刷 | プリンタ設定**メニュー項目を選択して下さい。詳しくは、「プリンタオプションの設定」を参照してください。

レポートウィンドウの印刷

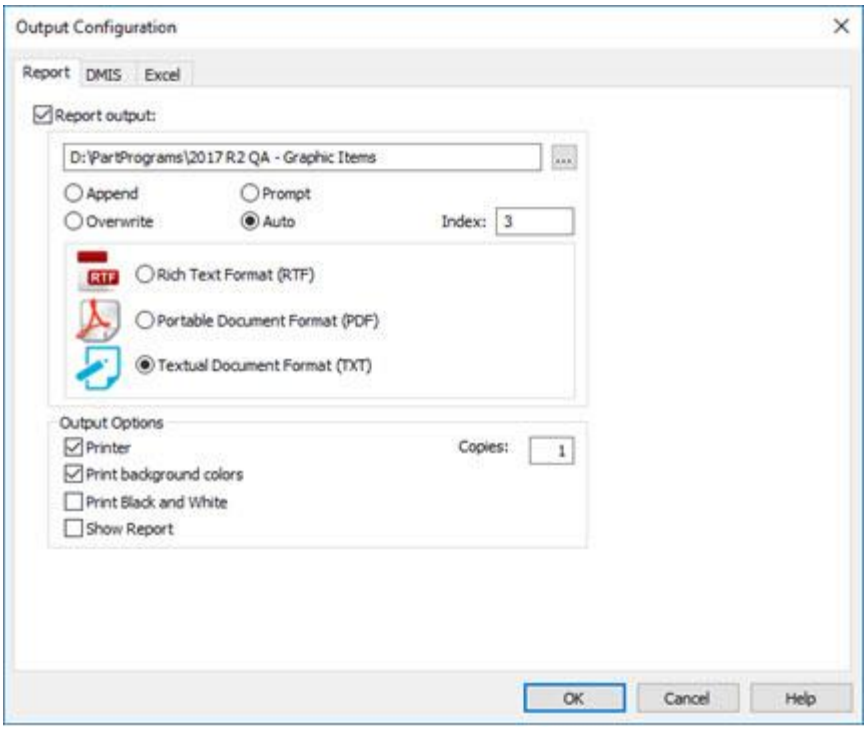
PC-DMIS はレポートウィンドウの検査レポートをさまざまな出力デバイスまたはファイルに送信します。PC-DMIS は多種多様なプリンタやプロッタをサポートします。ハードウェアの互換性に関する質問は、PC-DMIS の販売代理店へお問い合わせください。

検査レポートを印刷するには、**ファイル| 印刷| レポートウィンドウの印刷設定**メニューオプションを選択します。印刷する前に、**[ファイル | 印刷 | レポートウィンドウ印刷設定]** を選択して印刷ジョブの出力オプションを設定できます。

テキストのみのレポートを印刷している場合、True Type フォント（Courier New など）を使用してください。それ以外の場合は文字や線が期待通りに並ばない可能性があります。テキストのみのレポートで使用するフォントを変更する必要がある場合、レポートテンプレートで使用する TextReportObject の**フォント**プロパティを変更します。

レポートウィンドウの出力およびプリンタオプションの設定

ファイル | 印刷 | レポートウィンドウ印刷セットアップメニューオプションを選択すると**[出力設定]**ダイアログボックスが表示されます。



[出力設定]ダイアログボックス

このダイアログ ボックスを使用して PC-DMIS に検査レポートを送信したい場所を伝えます。ダイアログボックスには以下のタブが含まれ、これらを使用して DMIS ファイル、Microsoft Excel ファイル、または以下の組み合わせとしてファイル、プリンター、出力に宛ててレポートを送信することができます。

レポート - レポート出力をファイル(.rtf、.pdf または.txt)またはプリンタに送信します。このタブの使用については、「RTF、 PDF、 TXT またはデフォルトプリンタへの出力」を参照してください。このタブでの式を使用したファイルへの出力については「式を使用したファイルへの出力」を参照してください。

DMIS - レポート出力を DMIS 出力ファイル (.dmo) に送信します。このタブに関する詳細は「DMIS ファイルに出力」を参照してください。

Excel - レポート出力を Excel ファイル (.xls、xlsx、または .csv) に送信します。このタブに関する詳細は「Excel ファイルに出力」を参照してください。

保存された検査レポートの表示に関する詳細は、「その他のウィンドウ、エディタ、およびツールバーの使用」の章の「検査レポートの表示」トピックを参照してください。

マークされた設定に印刷オプションの設定

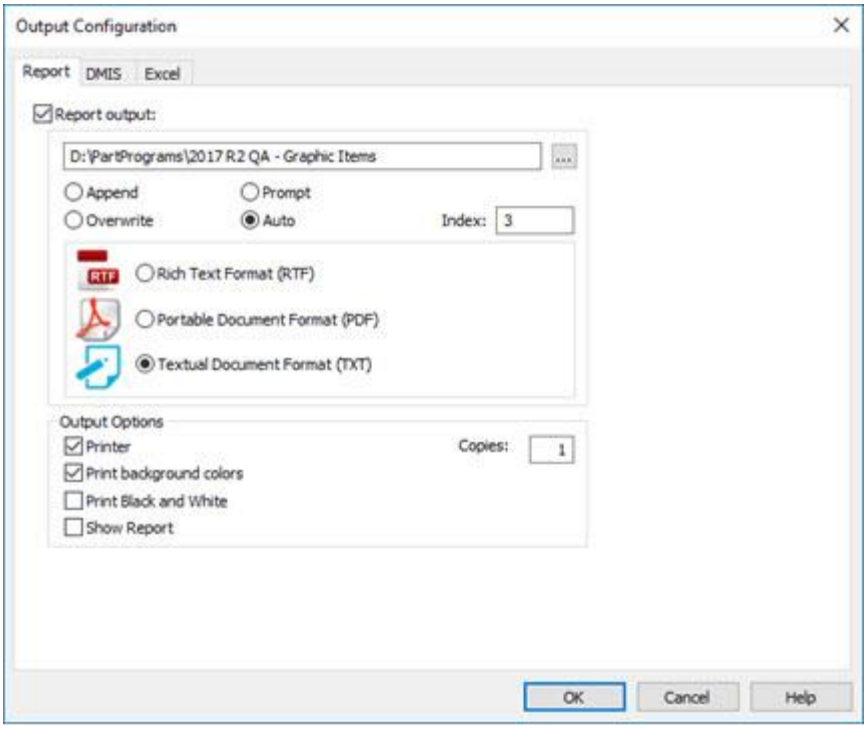
PC-DMIS では、「マークされたセット」が作成されるたびに**[出力設定]**ダイアログボックスのインスタンスが表示されます。*これは、新規に作成された「マークされたセット」のみに適用される印刷オプションを定義します*。代わりに、測定ルーチン全般に適用される既定の印刷設定を使用したい場合は、**[グローバル印刷設定の使用]**チェック ボックスを選択することもできます。「マークされたセット」の使用に関する詳細は、「測定ルーチンの編集」の章にある「マーク済み要素セットの作成と実行」の項目を参照して下さい。

既存のマークされた設定の印刷オプションを定義するには、「マークされた設定」ウィンドウで設定を選択して**ファイル| 印刷| ウィンドウ印刷設定をレポート**を選択します。

画像の比の設定

`MaxImageRatio` レジストリエントリは、レポートウィンドウから CAD 描画を印刷するときの画面解像度とプリンタ解像度の間の最大画像比を設定します。PC-DMIS Settings Editor の**レポート**の項にある `MaxImageRatio` レジストリエントリを参照してください。

RTF、PDF、TXT またはデフォルトプリンタへの出力



[出力設定] ダイアログボックス - [レポート] タブ

出力設定ダイアログボックス（**ファイル | 印刷 | レポートウインドウの印刷設定**）の**レポート**タブは下記を行うかどうかを定義します。

- レポートの出力をプリンタに送信する
- レポートを個別ファイル (.rtf、.pdf、または.txt) として保存する
- 上記の両方を行う

また、ダイアログボックスが生成されたレポートにオプションを提供します。

レポート出力

レポート出力 - これを選択すると PC-DMIS は出力をファイルに送信します。リッチテキスト形式（.rtf）または PDF 形式（.pdf）のいずれかで保存できます。最初に、測定ルーチンと同じ名前を持ち、拡張子の前に数字インデックスが付加されるようにファイ

ル名が生成およびフォーマットされます。PC-DMIS はこの初期ファイル名を生成しますが、この名前はデフォルト形式に従う必要はなく変更することができます。

レポート出力ボックスに変数名を入力することもできます。既にボックス内に経路がない限り、PC-DMIS はその変数のファイル名の値を解釈します。

追加 - PC-DMIS は検査レポートから選択したファイルに現在のデータを追加します。完全パスの指定が*必須*です。それ以外の場合、PC-DMIS は、測定ルーチンと同じディレクトリだと推測します。また、ファイルが存在しない場合は、それはレポートの生成時に作成されます。

追加を使用した RTF 制限: レポート作成のために RTF ドライバが PC-DMIS のテンプレート・アプローチを用いて作業する方法が制限されているため、RTF ファイルに*追加*する場合、PC-DMIS は、現在のレポートテンプレートに存在する他のオブジェクトに関わらず、**TextReporting** オブジェクトのコンテンツのみを送信します。

さらに、RTF ファイルへ追加することを選択した場合、そのファイルは、*常に***追加**オプションとともに使用されたファイルでなければなりません。最初に**上書き**または**自動**で使用した RTF ファイルには追加できません。

上書き - PC-DMIS は現在の検査レポートデータで選択されたファイルを上書きします。完全パスを指定する必要があり、指定しない場合、PC-DMIS は測定ルーチンと同じディレクトリと見なします。また、ファイルが存在しない場合は、それはレポートの生成時に作成されます。

プロンプト - PC - DMIS はユーザが報告のために目的地ファイルを選ぶことができる**改名保存**ダイアログ・ボックスを表示します。

自動 - PC-DMIS は**インデックス**ボックスの番号を使用してレポートファイル名を自動で生成します。生成されたファイル名は測定ルーチン名に数字のインデックスと拡張子が付いたものになります。また、作成されたファイルは測定ルーチン

と同じディレクトリに置かれます。作成されたファイル名と同じ名称のファイルが既に存在する場合、**[自動]**オプションは一意のファイル名が見つかるまで、ファイル名のインデックスの値を増加します。

報告書印刷後に、PC-DMIS は次の番号に**インデックス**の値を内部的に更新します。また、それは**印刷オプション**ダイアログ ボックスにおけるファイル名を変更して、新たに増加されたファイル名を示します。

リッチテキスト形式 (RTF) - PC-DMIS は Microsoft リッチテキスト形式 (. rtf ファイル) を使用してドキュメント交換のためのレポートを作成します。PC-DMIS はデフォルトでは Amyuni RTF コンバータを使用して RTF レポートを作成します。デフォルトでは PC-DMIS は Amyuni RTF コンバータを用いて RTF レポートを作成します。これは RTF レポート内部でレポートテンプレート要素を正確に配置するのに必要です。それには、RTF レポート内の、レポートテンプレート要素の正確な位置付けが必要となります。適切にレポートを表示するには、Microsoft Word を使用して**印刷レイアウト**にドキュメントのビューを設定しなければなりません。この形式でレポートを編集するのが難しい場合は、旧型式の RTF レポートを作成することを考えたほうがよい場合があります。

旧式 RTF レポートの作成

PC-DMIS はバージョン 3.7 以前のバージョンで使用されるレポートなど、旧式の RTF レポートを作成する方法を提供しています。これを行うには以下の手順に従います。

1. PC-DMIS を閉じて下さい。
2. PC-DMIS 設定エディタを起動し、**接続**をクリックします。
3. Settings Editor 内で、**USER_Printing** セクションを展開すると `DoNotUseAmyuniRTF` レジストリエントリが表示されます。

4. **現在 値**を **1** に設定して、**設定の保存**をクリックして、**OK** をクリックします。

> **ファイル| 印刷| ウィンドウ印刷設定をレポート** メニュー オプションを使用して作成される時にのみこの設定は機能します。PRINT/REPORT コマンド(**挿入| レポートコマンド| 印刷コマンド**)を挿入した場合、 RTF 出力を作成するコマンドを希望して、この値を **2** に設定します。

5. PC-DMIS を再起動します。
6. レポートウィンドウがレポートをテキスト形式で印刷するよう設定されていることを確認します。これを行うには、レポートウィンドウの終わりに空白を右クリックして**テキストモードの測定結果レポートを使用** チェックボックスを選択します。詳しい情報については、「測定結果のレポート」の章にある「レポート ウィンドウの内容変更」を参照して下さい。

*旧スタイルの **RTF** レポートのマージンおよびページサイズを変更*

`DoNotUseAmyUniRTF` レジストリエントリが 1 または 2 に設定されている場合、PC-DMIS Settings Edito の**印刷**セクション下にある以下のレジストリ エントリを変更することで RTF 出力に使用するデフォルトのマージンおよびページサイズを変更することができます：

`PcdmisRTFLeftMargin`

`PcdmisRTFRightMargin`

`PcdmisRTFTopMargin`

`PcdmisRTFBottomMargin`

`PcdmisRTFPaperHeight`

`PcdmisRTFPaperWidth`

RTF レポートの追加使用

RTF ファイル形式の意味の原因で、 RTF ファイルは主に以下のようにテキストベースのレポートを交換できるファイル形式として意図されています：

```
PART NAME  : Test Program
REV NUMBER : B5
SER NUMBER : 13579
STATS COUNT : 1

Active alignment changed to STARTUP

            START ANG=0,END ANG=0CYL1=CYLINDER MEASURED FROM 9 HITS
DIM LOC1= LOCATION OF CYLINDER CYL1  UNITS=MM
AX    NOMINAL       +TOL       -TOL       MEAS        DEV     OUTTOL
X      154.500      0.025      0.025    154.495     -0.005      0.000 ---#-----
Y       19.500      0.025      0.025     19.503      0.003      0.000 -----#---
Z      -35.000      0.025      0.025    -35.000      0.000      0.000 ----#----
```

default.rtp レポートテンプレートを使用してサンプルテキストベースのレポート

CADonly.rtp、TextOnly.rtp、その他同様のテンプレートに基づくファイルのようなグラフィカルな要素を含む RTF ファイルは、作成するのに長い時間がかかり、ファイルが非常に大きくなる可能性があり、グラフィックは他のファイル形式と同じように良いとは限りません。このような理由により、グラフィカルなレポートには RTF 形式ではなく PDF 形式を推奨します。

ポータブル文書フォーマット (PDF) - ポータブル文書フォーマット (PDF) オプションを選択した場合、PC-DMIS は *Adobe Portable Document Format (.pdf ファイル)*または電子ファイル共有を使用してレポートを作成します。PDF フォーマットの寸法は、デフォルトの青色の背景色を持たず寸法のシンボルも表示しません。

コンピュータに既にインストールされていない場合、pdf ファイルをビューするためにツリーAdobe® Acrobat® Reader™ をインストールする必要があります。以下の Adobe のウェブサイトからダウンロード可能です: http://www.adobe.com/products/acrobat/readstep.html

テキスト文書 (TXT) - PC-DMIS はプレーンテキストフォーマットでレポートを生成します。このタイプのレポートは任意のテキストエディタで表示できます。レポート生成時に、「レポート」ウィンドウで選択した実際のテンプレートが何であっても、PC-DMIS は default.rtp テンプレートを使用します。このテキスト形式レポートは画像など、あらゆるオブジェクトを無視します。default.rtp テンプレートについて詳しくは、"「測定結果をレポートする」章の「従来のテキストレポート」を参照してください。測定ルーチンを.txt 出力をサポートしないバージョンに保存すると、PC-DMIS はテキストフォーマットの代わりに PDF を使用します。

グローバル印刷設定の使用 - このチェックボックスは、[マークされたセット]ウィンドウから最初にマークされたセットを選択してこのダイアログ ボックスにアクセスした場合に利用可能になります。**グローバル印刷設定の使用**チェックボックスは、マークされたセットのグローバル出力ファイルのパラメータを PC-DMIS が使用するかどうかを決定します。このチェックボックスを選択すると、マークされたセットに使用する特定のデフォルト印刷オプションを上書きし、測定ルーチンのグローバル設定を使用して出力をより柔軟にコントロールすることが可能です。このチェックボックスを選ぶと、マークされたセットで使用するファイルへの印刷命名スキーマよりも自由なコントロールが可能です。

REPORT/LEGACY コマンドでは **Hyper レポートインライン** チェックボックスを使用できます。詳しくは、「測定結果のレポート」章の測定ルーチンでのレポートまたはレポート テンプレートの埋め込みを参照してください。

出力のｵﾌﾟｼｮﾝ

プリンター – レポートをデフォルトのプリンターに送信するかどうかを決定します。

背景色を印刷 – レポートの背景色を印刷するかどうかを決定します。。

デフォルトでは、このチェック ボックスは選択されており、背景色が印刷されます。このチェックボックスをクリアすると、背景色は印刷されません。既にレポートウィンドウにあるレポートから背景色をクリアまたは表示する場合、**レポート**ツール バーから**[レポートを再描画]**ボタンをクリックしてください。

このチェックボックスのデフォルト状態を変更するには、**編集**メニューをクリックし、**優先設定**に進み、次に**セットアップ**をクリックします。次に、**一般**タブで、チェックボックスのリストから**背景色の色を印刷**チェックボックスをマークするかクリアします。

pc-dmis	PART NAME : V41Test	March 15, 2006	12:22
	REV NUMBER :	SER NUMBER :	STATS COUNT : 1.0000

0.0000	MM	LOC1 - CIR1				
AX	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL
X	154.5000	0.010	0.010	154.5000	0.000	0.000
Y	80.5000	0.010	0.010	80.5000	0.000	0.000
PD	15.0000	0.010	0.010	15.0000	0.000	0.000
0.0000	MM	LOC2 - CIR2				
AX	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL
X	93.5000	0.010	0.010	93.5000	0.000	0.000
Y	80.5000	0.010	0.010	80.5000	0.000	0.000
PD	15.0000	0.010	0.010	15.0000	0.000	0.000
0.0000	MM	LOC3 - CIR3				
AX	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL
X	93.5000	0.010	0.010	93.5000	0.000	0.000
Y	19.5000	0.010	0.010	19.5000	0.000	0.000
PD	15.0000	0.010	0.010	15.0000	0.000	0.000
0.0000	MM	LOC4 - CIR4				
AX	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL
X	154.5000	0.010	0.010	154.5000	0.000	0.000
Y	19.5000	0.010	0.010	19.5000	0.000	0.000
PD	15.0000	0.010	0.010	15.0000	0.000	0.000

背景色付きのレポートの例

pc-dmis	PART NAME : V41Test	March 15, 2006	12:27
	REV NUMBER :	SER NUMBER :	STATS COUNT : 1.0000

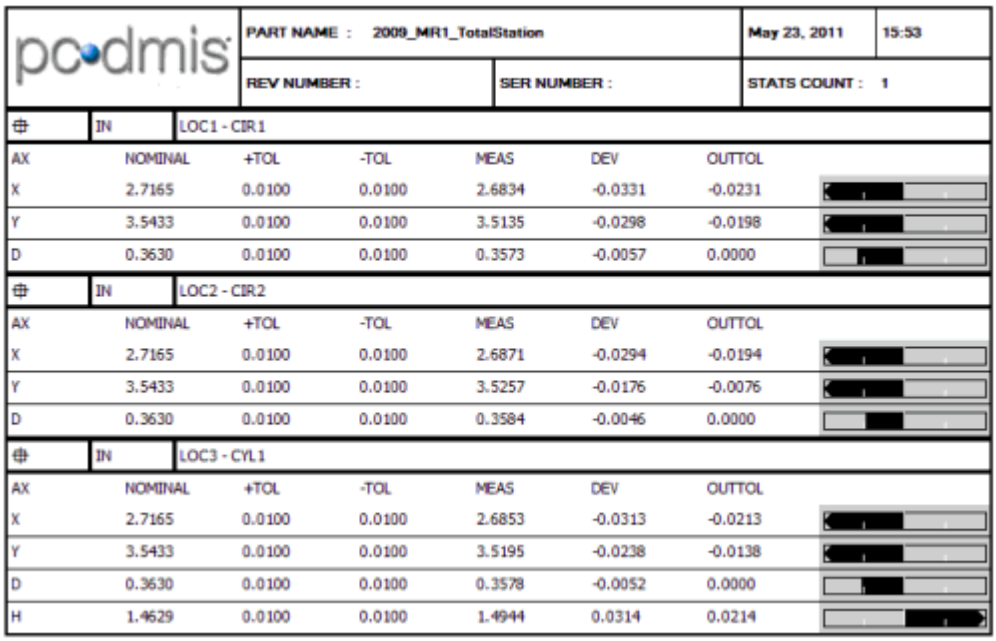
0.0000	MM	LOC1 - CIR1				
AX	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL
X	154.5000	0.010	0.010	154.5000	0.000	0.000
Y	80.5000	0.010	0.010	80.5000	0.000	0.000
PD	15.0000	0.010	0.010	15.0000	0.000	0.000
0.0000	MM	LOC2 - CIR2				
AX	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL
X	93.5000	0.010	0.010	93.5000	0.000	0.000
Y	80.5000	0.010	0.010	80.5000	0.000	0.000
PD	15.0000	0.010	0.010	15.0000	0.000	0.000
0.0000	MM	LOC3 - CIR3				
AX	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL
X	93.5000	0.010	0.010	93.5000	0.000	0.000
Y	19.5000	0.010	0.010	19.5000	0.000	0.000
PD	15.0000	0.010	0.010	15.0000	0.000	0.000
0.0000	MM	LOC4 - CIR4				
AX	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL
X	154.5000	0.010	0.010	154.5000	0.000	0.000
Y	19.5000	0.010	0.010	19.5000	0.000	0.000
PD	15.0000	0.010	0.010	15.0000	0.000	0.000

背景色なしのレポートの例

一部のケースで、ここで背景色の表示を閉じた後もレポートに背景色が表示され続ける場合があります。これは、一部のレポート テンプレートオブジェクト内に存在する特殊な背景色があるためであり、このチェックボックスからはコントロールできません。デフォルトでは、PC-DMIS レポート テンプレート内に存在する **TextReportObject** および**レポート** オブジェクトには、配色上ごく淡い緑色の背景色が付いています。**TextReportObject** にとって、これはテンプレート内のオブジェクトの境界を表示するのに役立ちます。この背景色が問題である場合、レポート テンプレートから当該オブジェクトの**色**プロパティにアクセスし、背景色を白色に変更して下さい。「測定結果をレポート」の「レポートのテキスト色を変更」を参照してください。

[白黒で印刷] – テキスト、線、および公差範囲のグラフを白黒または定義した色のいずれで印刷するかを決定します。。

これは、すべてのレポートを完全に白黒印刷するわけではありません。このチェックボックスの影響を受けない要素もあります (例えばグラフィックの表示ウィンドウ、画像、一部の OCX 要素はこの影響を受けません)。



PART NAME : 2009_MR1_TotalStation			May 23, 2011	15:53
REV NUMBER :	SER NUMBER :		STATS COUNT : 1	

⊕	IN	LOC1 - CIR1					
AX	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL	
X	2.7165	0.0100	0.0100	2.6834	-0.0331	-0.0231	
Y	3.5433	0.0100	0.0100	3.5135	-0.0298	-0.0198	
D	0.3630	0.0100	0.0100	0.3573	-0.0057	0.0000	

⊕	IN	LOC2 - CIR2					
AX	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL	
X	2.7165	0.0100	0.0100	2.6871	-0.0294	-0.0194	
Y	3.5433	0.0100	0.0100	3.5257	-0.0176	-0.0076	
D	0.3630	0.0100	0.0100	0.3584	-0.0046	0.0000	

⊕	IN	LOC3 - CYL1					
AX	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL	
X	2.7165	0.0100	0.0100	2.6853	-0.0313	-0.0213	
Y	3.5433	0.0100	0.0100	3.5195	-0.0238	-0.0138	
D	0.3630	0.0100	0.0100	0.3578	-0.0052	0.0000	
H	1.4629	0.0100	0.0100	1.4944	0.0314	0.0214	

白黒印刷されたレポートの例

pc-dmis	PART NAME : 2009_MR1_TotalStation		May 23, 2011	15:50
	REV NUMBER :	SER NUMBER :	STATS COUNT : 1	

⊕	IN	LOC1 - CIR1					
AX	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL	
X	2.7165	0.0100	0.0100	2.6834	-0.0331	-0.0231	
Y	3.5433	0.0100	0.0100	3.5135	-0.0298	-0.0198	
D	0.3630	0.0100	0.0100	0.3573	-0.0057	0.0000	

⊕	IN	LOC2 - CIR2					
AX	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL	
X	2.7165	0.0100	0.0100	2.6871	-0.0294	-0.0194	
Y	3.5433	0.0100	0.0100	3.5257	-0.0176	-0.0076	
D	0.3630	0.0100	0.0100	0.3584	-0.0046	0.0000	

⊕	IN	LOC3 - CYL1					
AX	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL	
X	2.7165	0.0100	0.0100	2.6853	-0.0313	-0.0213	
Y	3.5433	0.0100	0.0100	3.5195	-0.0238	-0.0138	
D	0.3630	0.0100	0.0100	0.3578	-0.0052	0.0000	
H	1.4629	0.0100	0.0100	1.4944	0.0314	0.0214	

カラー印刷されたレポートの例

レポートを表示 – .pdf または .rtf ファイルに送信されたレポートを開くかどうかを決定します。このオプションにマークを付けると、レポートが作成された後に、.rtf または .pdf ファイルと関連付けたすべてのアプリケーションでレポートが開きます。

コピー – プリンターに送信するコピーの数を決定します。このオプションは**プリンター**オプションにマークを付けている場合にのみ有効です。

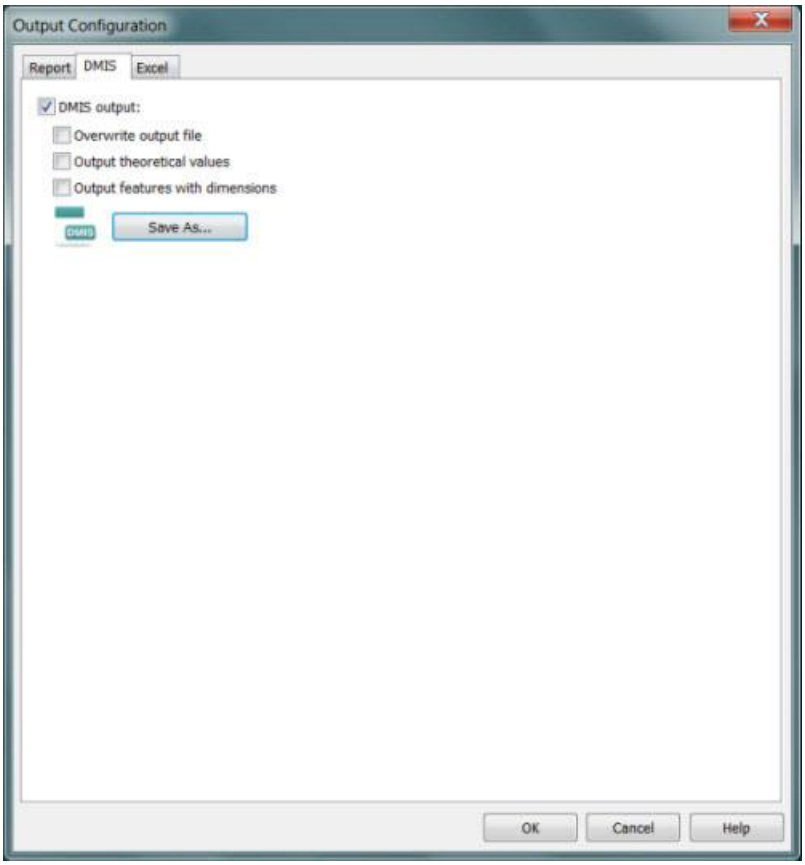
印刷解像度の変更による、ファイル サイズ コントロール

お客様のレポートにパートモデルの画像が含まれる場合、PC-DMIS はデフォルトではお手持ちのプリンターのより高度の解像度能力を用いて、これらのモデル画像を印刷します。このことは、パートモデルを表示するレポートがファイルに送られたとき、そのファイルサイズが予想以上に大きい可能性があることを意味しています。

PC-DMIS Settings Editor の USER_Printing セクションの MaxPrintResoution レジストリエントリの値を変更することで、**解像度をコントロールでき、レポートのファイルサイズも** コンロトールできます。レジストリエントリを変更する方法については、「レジストリエントリの変更」を参照してください。

この MaxPrintResolution レジストリエントリは、印刷装置が CAD 画像の印刷時に生成する 1 インチ当たりのドット数 (dpi) を定義します。必要に合わせてこの値を変更して、ファイルサイズと画質の間の適切なバランスを定義することができます。デフォルト値は 1,000,000 dpi であり、任意プリンタの最高印刷解像度性能を効果的に活用できます。プリンタの最高印刷解像度より低い値を定義すると、ファイルサイズが小さくなります。例えば、プリンタが最大 500 dpi を印刷できるが、エントリーを 70 dpi などの小さな値に変更するとファイルサイズが小さくなります。

DMIS ファイルに出力



[出力設定] ダイアログボックス – DMIS タブ

[出力設定] ダイアログボックス （**ファイル | 印刷 | レポートウィンドウ印刷設定**） で、**DMIS** タブから **DMIS 出力**にマークを付けて測定ルーチンを実行すると、PC-DMIS は検査レポート情報を DMIS 出力ファイルとして測定ルーチンと同じベースファイル名に.dmo というファイル拡張子の付いた名前で保存します。PC-DMIS はこのファイルを測定ルーチンが所在する場所と同じディレクトリに保存されます。

出力ファイルを上書き、**理論値を出力**、および**寸法付き要素を出力**チェックボックスおよび**名前を付けて保存** ボタンが利用可能になります。デフォルトでは、測定ルーチンを実行するたびに PC-DMIS は自動的に出力ファイルを生成します。そのたびにファイル名の番号が増加されます。

出力ﾌｧｲﾙの上書き

- このチェックボックスをオンにすると、PC-DMIS は古い出力ファイルを新しい出力ファイルで上書きします。このチェックボックスを選択しないと、PC-DMIS は以前のファイルを上書きせずに、**名前を付けて保存**ダイアログ ボックスで指定されたファイル名の数字を自動的に増やします。

  例えば、以前に出力ファイルとして「test.dmo」を選択し、**出力ファイルを上書き**が選択されていなかった場合、次回に測定ルーチンが実行されるとき、PC-DMIS は新しいファイルを「test1.dmo」として保存します。測定ルーチンを新たに実行すると、この方法で保存されるファイル名の番号がインクリメントされます。

- **出力ファイルを上書き**チェックボックスを三番目の状態 (ソリッドブルーの色) に置くと、PC-DMIS は追加モードで指定されたファイルを開きます。これは、同ファイルへの出力を可能、不可能、再可能とする DMIS の規則に沿っています。PC-DMIS では、**出力ファイルを上書き**がチェックされている状態でファイルが開かれた場合にのみ、この機能が正常に作動します。

理論値の出力

- このチェックボックスを選択すると、PC-DMIS はすべての理論値と測定値を出力 DMIS ファイルに出力します。このチェックボックスをオフにすると、理論値はレポートに含まれません。
- **理論値の出力** チェックボックスをその三番目の状態 (ソリッドブルーの色) に置くと、オリジナル DMIS ルーチンで明示的に出力されたこれらの理論値のみがレポートに出力されます。測定ルーチンが DMIS インポートプロセスで作成されている場合、三番目の状態は有用で、同じ DMIS の出力形式を維持する必要があります。

測定結果と共に幾何学要素を出力

- このチェックボックスをオンにすると、PC-DMIS は測定された要素と関連する公差値を出力ファイルに保存します。PC-DMIS は、要素自体に関連付けられているそれぞれの測定結果に対する関連公差の直前に測定の結果を書き込みます。

  要素が任意の公差と関連付けられていない場合には、PC-DMIS は何の出力は作成しません。

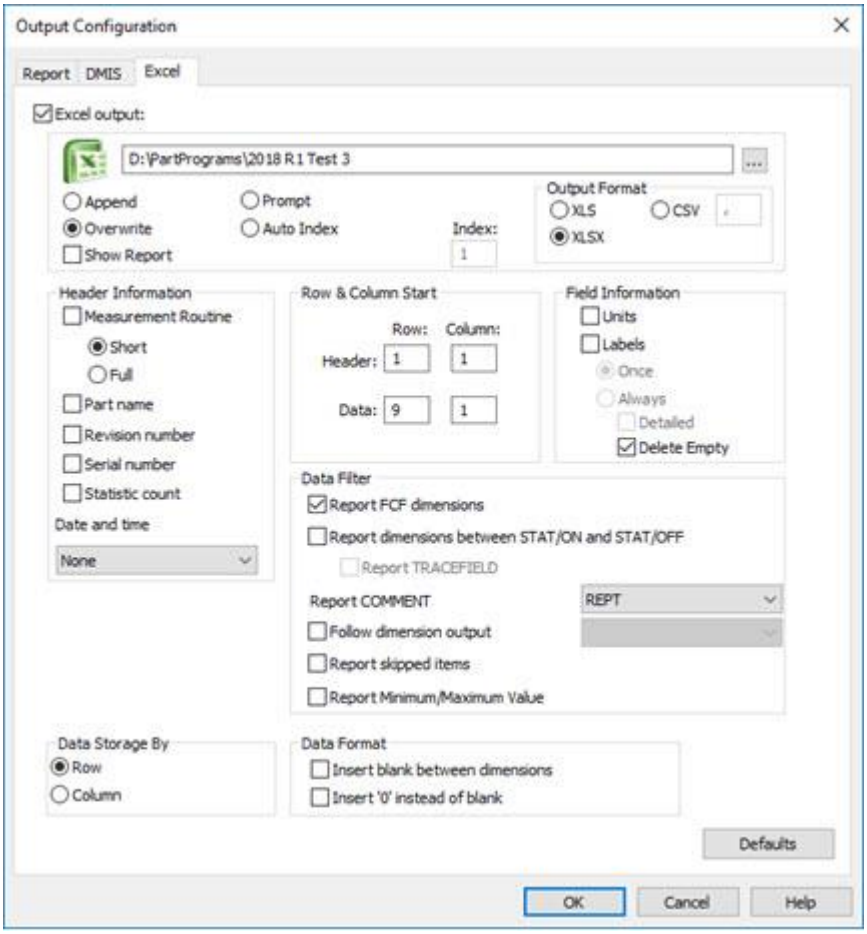
- チェックボックスがオフにされた場合、要素が測定され、PC-DMIS が関連する寸法を実行したすぐ後に測定の結果が正確に書き込まれます。

改名保存

このボタンは、[**名前を付けて保存**] ダイアログ ボックスを開きます。DMIS の出力形式(. dmo)でファイルと選択したディレクトリに検査レポートを保存します。**名前を付けて保存** ダイアログボックスから**保存** をクリックした場合、PC-DMIS はこのファイルを保存しません。代わりに、次回測定ルーチンが実行された時に、前回指定された名称のついた出力ファイルが作成されます。

ファイル名の数値部分は 10 以上の数字を超えてはならりません。それ以外の場合は、古い出力ファイルを上書きする危険性を実行します。

Excel ファイルに出力



[出力設定]ダイアログボックス - Excel タブ

[**出力設定**]ダイアログボックス（[**ファイル|印刷|レポートウィンドウの印刷設定**]）では、**Excel** タブがレポートを Excel ファイルに出力します。

PC-DMIS は、レポートウィンドウのモードに従います：

- レポートウィンドウのツールバーで[**レポートモードの表示**]を選択すると、レポート出力は最初から最後まで生成されます。

- レポートウィンドウのツールバーで[**最後に実行するレポートモードを表示**]を選択すると、実行リストの後にレポート出力が生成されます。

詳細については、「レポートツールバー」を参照してください。

レポートを Excel フォーマットで出力するには以下を行ってください。

1. **出力設定** ダイアログボックス (**ファイル | 印刷 | レポートウィンドウ印刷セットアップ**) の **Excel** タブをクリックします。
2. **Excel 出力** チェックボックスを選択してタブオプションを有効にします。
3. 必要に応じてダイアログボックスで選択を行い、**OK** をクリックします。

PC-DMIS は検査レポートの情報を、**出力形式**セクションで選択し、作成された Excel ファイル形式で保存します。デフォルトは 同じベースのファイル名に . xlsx ファイル拡張子を付けた測定ルーチンです。既定の位置はユーザーの測定ルーチンと同じディレクトリにあります。利用可能な Excel ファイル形式は以下のとおりです。

- 最新の Excel .xlsx フォーマット
- 旧 Excel .xls フォーマット
- カンマ区切り値 .csv フォーマット

Excel オプションの設定

Excel 出力 チェックボックスを選択すると、以下のオプションが有効になります。

Excel 出力 - レポートが保存されるファイル名とパスが表示されます。ファイル名はデフォルトの測定ルーチンの名前になります。新しいファイル名とパスを入力するか、「**...** 」。ブラウズボタンをクリックして既存のファイル名とパスを探し選択します。

Excel 出力ボックスに変数名を入力することもできます。既にボックス内に経路がない限り、PC-DMIS はその変数のファイル名の値を解釈します。

追加 - ファイル名がターゲットの位置に既に存在している場合、現在のレポート情報が既存ファイルの最後に自動的に追加されます。

上書き - ファイル名がターゲットの位置に既に存在している場合、既存ファイルは自動的に現在のレポート情報で上書きされます。

プロンプト - ファイル名がターゲットの位置に既に存在している場合、既存ファイルを現在のレポート情報で上書きするかファイル名を更新するか尋ねられます。

自動インデックス - **インデックス**ボックスと共に使用され、この値は、インデックス値によって増分値を追加してファイル名を更新します。例えば、**出力フォーマット**エリアで **XLS** を選択すると、最初のファイル名は「FileName001.xls」になります。以降、ファイル名は「FileName002.xls」、「FileName003.xls」などとなります。

インデックス - 出力ファイルに自動的に名前を付けるために**[自動]**オプションを使用するときに、増分値を表す表示専用フィールドです (上記の **[自動]**オプションを参照してください。)

レポートの表示 - エクセル形式のレポートを生成すると、それが自動的に開きます。

出力フォーマット - 出力タイプを定義します。以下のオプションが含まれます。

XLS - 出力を旧 Excel フォーマットのファイルに送信します。

XLSX - 出力を最新の Excel フォーマットのファイルに送信します。

CSV - 出力をプレーンテキストのカンマ区切り値 (CSV) ファイルに送信します。**CSV** の横にあるボックスで異なる区切り文字を選択できます。このボックスは、CSV オプションが選択されている場合に有効になり、CSV ファイルにエクスポートするときに使用する区切り文字または区切り文字を決定します。デフォルトはカンマ文字(,)です。

ヘッダー情報 - 測定ルーチンのヘッダーデータを出力ファイルに書き込む方法について決定します。

測定ルーチン - 測定ルーチン名が出力ファイルに含まれます。

短縮 - ファイル名が短縮された形式となり、フルパスではなくファイル名のみが表示されます。

フル - ファイル名はフルパスを含めて表示されます。

パート名 - パート名が出力ファイルに含まれます。

改訂番号 - 改訂番号が出力ファイルに含まれます。

シリアル番号 - シリアル番号が出力ファイルに含まれます。

統計数 - トランザクションまたは実行の数が出力ファイルに含まれます。

日付と時刻 - 日付と時刻が出力ファイルおよびフォーマットに表示されるかどうかを指定します。それには以下のオプションがあります。

なし - 日付と時刻を出力ファイルに含みません。

システム - コンピュータの現在のフォーマットで日付と時刻をフォーマットします。これがデフォルトです。

24 時間 - これは日付と時刻を 24 時間形式でフォーマットします。

行列の開始 - 測定結果データが出力ファイルに表示される方法を決定します。

ヘッダ行および**列** - ヘッダ情報を表示する開始位置を定義します。例えば、2 および 2 の値は下に向かって 2 行目、右に向かって 2 列目から開始することを意味します。

データ行および**列** - 測定結果データ情報の表示が開始する位置を定義します。例えば、値 9 と 2 は下に向かって 9 行目、右に向かって 2 列目から開始することを意味します。

フィールド情報 - フィールド情報を保存する際のフォーマットを決定します。

単位 - 各測定結果で使用される測定単位がエクスポートに含まれるかどうかを決定します。例えば、角度の測定値は度に対する DEG を示し、サイズの測定値はミリメートルに対する MM を、インチに対する IN を示します。

ラベル - 出力ファイルでデータフィールドの隣にラベルが表示されるかどうかを決定します。これをマークすると下記オプションが有効になります。

一度 - ヘッダー情報の後、すべての測定結果がリストに表示される前にフィールドラベルが一度だけ現れます。

常時 - フィールドラベルは各測定結果の前で現れます。

詳細 - **[常時]**をマークすると、このチェックボックスが選択可能になります。レポートにすべてのフィールドラベルを表示したい場合はこのチェックボックスを選択します。

このチェックボックスを選択する場合、表示されるラベルは以下の通りです：測定結果、説明、要素、軸、セグメント、公称値、測定値、プラス公差、マイナス公差、ボーナス、偏差、公差範囲外、偏差角度、基準要素のシフト効果、未使用の領域、シフト X、シフト Y、シフト Z、回転 X、回転 Y および回転 Z。

チェックボックスを選択しない場合、測定結果、説明、軸、公称値、測定値、プラス公差、マイナス公差、偏差および公差範囲外のラベルのみが表示されます。

空の削除 - 任意の空フィールドをレポートから削除します。

データ保存方法 - レポートを行または列のいずれかで表示する方法を決定します。

行 - 測定結果が横に並べられます。

列 - 測定結果が縦に並べられます

データフィルタ - データを出力レポートでフィルタする方法を決定します。

FCF 寸法のレポート - PC-DMIS は「要素コントロールフレーム」コマンドを Excel ファイルに渡します。「要素コントロールフレームの使用」章を参照してください。

STATS/ON と STATS/OFF 間の寸法のレポート - このチェックボックスを選択すると、測定ルーチンで STATS/ON および STATS/OFF コマンドの間に寸法(または要素コントロールフレームの測定結果)コマンドを入れる*必要があり*、そうしない場合、ウィザードはデータを Excel ファイルにエクスポートしません。このチェックボックスを外すと、すべての測定結果コマンドが Excel ファイルにエクスポートされます。「統計データの追跡」章を参照してください。下記のオプションが有効になります：

TRACEFIELD のレポート - PC-DMIS は TRACEFIELD コマンドが STATS/ON および STATS/OFF コマンド内部にある場合、TRACEFIELD は Excel レポート内の TRACEFIELD コマンドからのデータを含みます。詳細については、「トレースフィールドの使用」の章を参照してください。

レポート コメント - PC-DMIS が Excel レポートにコメントを含めるかどうかを決定します。それには以下のオプションがあります。

なし - PC-DMIS は、Excel レポートにコメントを送信しません。

REPT - PC-DMIS は、レポートコメント (COMMENT/REPT コマンド) のみを Excel レポートに送信します。

レポートの表示 - PC-DMIS は、すべてのレポートコメント（COMMENT/REPT コマンド）、及び**レポートに表示する**チェックボックスを Excel レポートにマークしたコメントを送信します。

コメントについて詳しくは、「レポートコマンドの挿入」章の「プログラマコメントの挿入」トピックを参照して下さい。

寸法出力に従う - PC-DMIS はデータをフィルタして、ユーザーがこのリストから選択するものすべてに適合するように設定された出力を持つ寸法のみが Excel レポートに含まれるようにします：

- ﾚﾎﾟｰﾄ
- 統計ﾃﾞｰﾀ
- 両方

例えば、ユーザーが**レポート**を選択し、位置の測定結果を OUTPUT=STATS に設定する場合、位置の測定結果は Excel レポートに含まれません。

測定結果の出力について詳しくは、以下のトピックを参照してください：

- 従来の測定結果については、「従来の測定結果の使用」の章の「出力先」を参照してください。
- FCF の測定結果については、要素コントロールフレーム」の章の「GD&T ダイアログボックス - 詳細タブ」トピックに記載された **Output** エリアを参照してください。

スキップされた項目をレポート - PC- DMIS はオペレータが実行時にスキップした項目を処理して、それらをレポートに含めます。このチェックボックスをオフにすると、PC-DMIS はスキップした項目を無視します。オペレータが手動でそれらをスキップするか、「ON ERROR」条件がそれらをスキップするように PC-DMIS に命じる場合にコマンドがスキップされることに注意してください。**スキ**

ップの詳細については、「実行ダイアログボックスの使用」を参照してください。On Error の分岐については、「 On Error の分岐」を参照してください。

最小値/最大値をレポート - 測定結果を作成する点からの最大偏差値と最小偏差値を表示します。すべての測定結果に対する MaxMin (最大最小) がレポートされますが、それは線プロファイルと面プロファイルに対してのみ意味を持ちます。この一例としては、「ユーザー設定」章の「パラメータ設定：測定結果タブ」トピックを参照してください。

データ形式 - 下記のように出力レポートがデータを表示する方法を決定します。

測定結果の間に空白を挿入 - 各測定結果の後に空白の行/列が挿入されます。

空白ではなく「0」を挿入 - 空白データの代わりに「0」(ゼロ) を挿入します。

デフォルト - このボタンはこのダイアログボックスの設定を保存する「デフォルト(複数)」ファイル(ExcelDefaults.p2xfile)を作成します。このボタンをクリックすると、PC-DMIS はメッセージを表示せずに「デフォルト」ファイルの内容を自動的に更新します。

PC-DMIS は下記のケースでこのデフォルトファイルを使用します。

- 新規測定プログラムの場合
- PC-DMIS がプログラム固有の設定を見つけることができない場合における現在の測定プログラムのケース。(PC-DMIS はユーザーが **OK** をクリックするときはいつでもプログラム固有の.p2x ファイルを測定プログラムと同じディレクトリに作成することに注意してください。)

PC-DMIS は ExcelDefaults.p2x ファイルを以下に保存します: C:\ProgramData\Hexagon\PC-DMIS\2020 R1\。ユーザーは任意のテキストエディタでそれを表示できます。

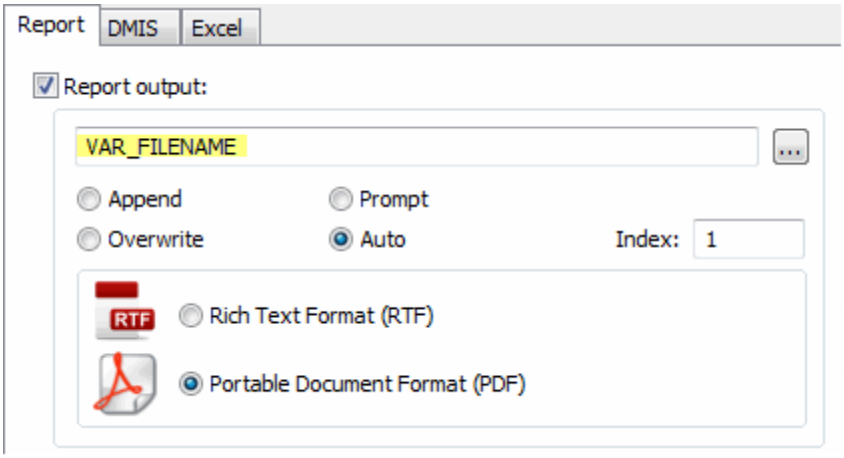
式を用いてファイルに出力

[出力設定] ダイアログボックス (**ファイル | 印刷 | ウィンドウ印刷設定のレポート**) の **[レポート]** タブから、**[ファイル]** ボックスで式を使用できます。この機能を用いると、**出力設定**ダイアログ ボックスで測定ルーチンのコードを使用して出力ファイルの保存先ディレクトリを動的に変更できます。

例えば、2 人のユーザーJohn と Amy が同じ測定ルーチンの検査レポートをユーザー名に基づいた既存サブディレクトリに送信するとします。各ユーザーに対する**出力構成**ダイアログボックスを開き、保存先ディレクトリとレポート名を変更するのではなく、以下のようにユーザーに自分の名前をコメントに入力してもらい、割り当てコマンドとフロー制御コマンドを使用して、異なる保存先ディレクトリとレポート名を変数に保存することができます:。

```
C1 =COMMENT/INPUT,YES,氏名を入力してください:
IF/C1.INPUT=="John"
ASSIGN/VAR_FILENAME="C:\\inspectionreports\\John\\John.rtf "
COMMENT/OPER,NO,VAR_FILENAME
END_IF/
ELSE_IF/C1.INPUT=="Amy"
ASSIGN/VAR_FILENAME="C:\\inpectionreports\\Amy\\Amy.rtf"
COMMENT/OPER,NO,VAR_FILENAME
END_ELSEIF/
ELSE/
ASSIGN/VAR_FILENAME="C:\\inspectionreports\\"+C1.INPUT+".rtf"
COMMENT/OPER,NO,VAR_FILENAME
END_ELSE/
```

次に、**[ファイル]**ボックスで、**[出力設定]**ダイアログボックスの**[レポート]**タブで、以下のように VAR_FILENAME 変数を入力できます。



VAR_FILENAME in File box

その後、測定ルーチンを実行するときにユーザーが John である場合、*John.rtf* レポートが John のディレクトリに保存されます。ユーザーが Amy である場合、*Amy.rtf* が Amy のディレクトリに保存されます。他の人の名前を入力すると、それががデフォルトの *C:\Inspectionreports* ディレクトリに保存されます。

- コメントについて詳しくは、「レポートコマンドの挿入」章の「プログラマコメントの挿入」トピックを参照して下さい。
- 式および変数に関する情報については、「式および変数の使用」の章を参照して下さい。
- フローコントロール文の情報については、「フローコントロールを使用した分枝」の章を参照して下さい。

測定ルーチンを閉じて終了する

- アクティブな測定ルーチンを保存し、閉じるには、**ファイル|クローズ**をを選択します。測定ルーチンが保存されていない場合、ファイルに名前を付けて保存するように指示されます。

- 現在の測定ルーチンを終了するには、**ファイル|終了**を選択します。保存していないデータがある場合、保存しないで測定ルーチンを終了するかどうかを問うメッセージが表示されます。測定ルーチンを保存するには、メッセージボックスで**いいえ**を選択して、**ファイル | 保存**または**ファイル | 名前を付けて保存**を選択します (詳しくは、「測定ルーチンの保存」にある指示に従ってください)。

各ウィンドウの X をクリックし、ソフトウエアに開かれているすべてのサブウインドウ (このレポートウィンドウ、編集ウィンドウ及びグラフィックス表示ウィンドウ) を閉じると、PC-DMIS は直ちに測定ルーチンを保存して閉じます。**ビュー** メニューを使用してウィンドウを非表示する場合は、測定ルーチンが開いたままになります。

ソフトウェアの終了

現在の測定ルーチンと PC-DMIS を終了するには、 **ファイル| 終了** コマンドを選択します。**File | Exit** を選択すると PC-DMIS は終了前に現在の測定ルーチンを自動的に保存します。